



AVANT GRAND

N1X

取扱説明書

準備

本編

資料

ご使用の前に必ず4～7ページの「安全上のご注意」をお読みください。

製品の組み立てやお引越しの際は、AvantGrandの正規取扱店にご依頼ください。(組み立て説明については巻末をご覧ください。)

JA

このたびは、ヤマハAvantGrand(アバングランド)をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この楽器は、グランドピアノに限りなく近いタッチと音で演奏いただけるハイブリッドピアノです。
この楽器に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、本書をよくお読みになって
からご使用ください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してい
たいただきますようお願いいたします。

取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

■ 冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

この楽器の機能や使い方を説明しています。
クイックオペレーションガイド(51ページ)
はボタンや鍵盤に割り当てられた機能の一
覧表です。

■ 電子マニュアル(PDF形式)



スマートデバイス接続マニュアル

この楽器をスマートフォンやタブレット端
末などのスマートデバイスと接続する方
法を説明しています。iOS用とAndroid用が
ありますので、お使いのデバイスに合わせ
てご覧ください。



コンピューターとつなぐ

この楽器とコンピューターを接続する方
法や、データを送受信する方法などを説明し
ています。



MIDIリファレンス

この楽器のMIDIに関する資料を掲載してい
ます。



MIDI入門

MIDIについての基礎知識を説明していま
す。

これらのマニュアルは、下記ウェブサイトの「取扱説
明書」のページからご覧いただけます。

サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

付属品(お確かめください)

☐ 取扱説明書(本書)	x 1
☐ 製品登録のご案内	x 1
☐ 保証書	x 1
☐ キーカバー	x 1
☐ 電源コード	x 1
☐ イス(高さ調節可)	x 1
ハンドルを時計回りに回すと高くなります(ご購入時には、ハンドルは固めに締められています)。	
☐ フェルトセット	x 1
本体がぐらつく場合に使用します。詳しくは、袋内の説明書をご覧ください。	

スマートデバイスアプリ「Smart Pianist (スマートピアニスト)」

お使いのスマートデバイスに「スマートピアニスト」(無料)をインストールすると、スマートデバイスで音色選択やメトロノームなどを直感的に操作したり、MIDIソングの譜面を表示したりできます(38ページ)。

目次

安全上のご注意.....	4
--------------	---

準備

簡単な準備だけでピアノ演奏を楽しめます。さっそく音を出してみましょう。

各部の名前	10
音を出してみましょう	11
鍵盤蓋を開ける/閉める	11
譜面立てを使う	11
電源を入れる/切る	12
楽器のバージョンを確認する	13
音量(マスターボリューム)を調節する	14
ヘッドフォンを使う	15
ペダルを使う	16

本編

演奏を録音するなど、楽器を便利に使いこなすための機能を説明しています。

楽器を使いこなす	17
音色を選ぶ	17
音色デモ曲を聞く	18
メトロノームを使う	19
テンポを調節する	20
タッチ感度を変える	20
VRM機能を使った共鳴音を楽しむ	21
音に残響を付ける(リバンプ)	22
音の明るさ(プリリアンス)を調節する	22
キー(調)を変える(トランスポーズ)	23
音の高さを微調整する(チューニング)	23
音律(調律法)を設定する	24
曲(ソング)を再生する	25
この楽器で再生できるソング	25
ソングを再生する	26
演奏を録音する	28
録音したソングを削除する	30

USBフラッシュメモリーを使う	31
USB機器を接続する	31
USBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)する	32
USBフラッシュメモリー内でのファイル管理	32
楽器に録音したユーザーソングをUSBフラッシュメモリーにコピーする	33
バックアップデータと楽器の初期化	34
バックアップデータ	34
楽器の初期化(イニシャライズ)	34
他の機器と接続する	35
端子について	35
外部オーディオ機器と接続する—[AUX IN]端子、AUX OUT [R][L/L+R]端子	35
外部MIDI機器と接続する—MIDI [OUT][IN]端子	36
コンピューターと接続する—[USB TO HOST]端子	38
スマートデバイスと接続してアプリを使う	38
オーディオデータを送受信する(USBオーディオインターフェース機能)	40
Bluetooth対応機器のオーディオデータを楽器で鳴らす(Bluetoothオーディオ機能)	40

資料

メッセージ一覧などの資料やクイックオペレーションガイドを掲載しています。

メッセージ一覧	42
困ったときは	43
プリセットソングリスト	44
N1Xの組み立て方	45
仕様	48
索引	49
Bluetoothについて	50
クイックオペレーションガイド*	51

* 鍵盤を使って操作する機能を一覧できます。

準備

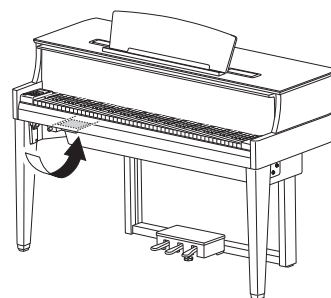
本編

資料

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号



(bottom_ja_02)

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

**警告**

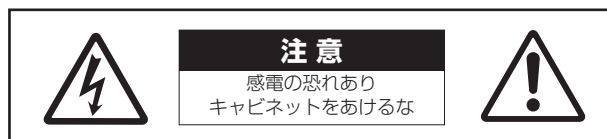
この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

**注意**

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」



電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。
また、電源コードに重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。
誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

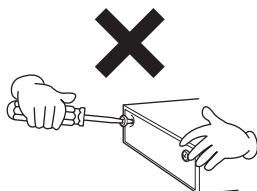
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



設置



禁止

医療機器の近くなど電波の使用が制限された区域で使用しない。

本体が発する電波により、医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。



禁止

心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から15cm以内で使用しない。

本体が発する電波により、ペースメーカーや除細動器の動作に影響を与えるおそれがあります。

水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上ろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



注意

電源 / 電源コード



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。





必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。

手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

この製品を移動する場合は、安全に運べる人数で行なう。

この製品は重量物です。無理に移動すると、腰を痛めたり床を傷つけたりするおそれがあります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

部屋の換気を十分に行なう。

製品に使用している木製部材は、環境・人体への影響を配慮していますが、塗料や接着剤などの影響により、まれに異臭を感じたり、目がしみたりする場合があります。

このような事態を避けるため、以下の点にご注意ください。

1. 本製品は、輸送時の品質維持を目的として気密性の高い梱包をしています。
開梱設置後の数日間は、楽器を設置した部屋の換気を徹底してください。
2. 日常から十分に換気を行なってください。部屋が小さい場合は、特にご注意ください。
3. 高温下で長時間部屋を閉め切っていた場合は、換気を行ない、室温を下げてからご使用ください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

鍵盤蓋や本体のすき間に手や指を入れない。また、鍵盤蓋で指などをはさまないように注意する。

お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

鍵盤蓋を閉めるときは無理な力を加えない。

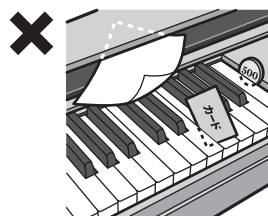
鍵盤蓋には「ソフトランディング」機構が付いており、鍵盤蓋がゆっくり閉まるようになっています。閉めるときに鍵盤蓋に無理な力を加えると「ソフトランディング」機構が破損し、手指をはさんでけがをするおそれがあります。



禁止

鍵盤蓋やパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。





必ず実行

地震のときは、本体から離れる。

地震による強い揺れで本体が動いたり転倒したりして、けがをするおそれがあります。



禁止

イスにすわったままでイスの高さを調節しない。

高低調節機構が無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしったりする原因になります。

イス



禁止

不安定な場所に置かない。

イスが転倒して、お客様やほかの方々けがをする原因になります。



必ず実行

イスのネジを定期的に締め直す。

イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるみ、お客様がけがをする原因になります。ネジがゆるんだ場合は、工具で締め直してください。



禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



必ず実行

小さなお子様の後方への転倒に注意する。

背もたれがないため、後方へ転倒してけがをするおそれがあります。



禁止

イスには二人以上ですわらない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[o](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微電流が流れています。[o](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

DMI-6 4/4

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- ・テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。iPhone/iPadなどのスマートデバイスと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため機内モードをオンにしてからWi-FiまたはBluetoothをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- ・直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃~40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- ・本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- ・本体の表面に金属、陶器、その他硬い物を当てないでください。表面にひびが入ったり、はがれたりする原因になります。
- ・イスの脚で床やたたみを傷つけないよう注意してご使用ください。
イスの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護されることをおすすめします。

■ 製品のお手入れに関する注意

- ・手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を含ませた柔らかい布を固くしぼってご使用ください。鍵盤の頑固な汚れには「ヤマハ鍵盤クリーナー」をお使いください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- ・本体のほこりや汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。強く拭くと、ほこりの粒子で本体の表面に傷がつく場合があります。つやを保つためには、ユニコンをピアノクロスに含ませてムラなく拭き、別の布で伸ばすように磨き上げます。ユニコンは楽器店などで買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。
- ・極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露する)ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。

■ データの保存に関する注意

- ・ この楽器の一部のデータ(34ページ)は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。
- ・ 本体に録音したソングデータ(28ページ)は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USB フラッシュメモリー/ コンピューターなどの外部機器に保存してください(33、38ページ)。USBフラッシュメモリーを使う前には、必ず31ページをお読みください。
- ・ 保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器にバックアップとして保存されることをおすすめします。

この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ・ ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・ この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されていません。
※上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。
※上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行ない、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- ・ 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- ・ この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・ Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ iPhone、iPad、iPod touchは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- ・ AndroidはGoogle LLCの商標です。
- ・ IOSは、米国およびその他の国におけるCisco社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- ・ Bluetooth[®] およびロゴはBluetooth SIGの登録商標であり、ヤマハ株式会社はライセンスに基づき使用しています。
- ・ MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・ その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■ Bluetoothの扱いについて

- ・ Bluetoothについては、50ページをご覧ください。

■ 調律について

- ・ この楽器は調律の必要がありません。ただし、ピアノと同様の鍵盤・アクション機構を使用しているため、使用いただく中で、鍵盤・アクションがご購入時の状態から変化する場合があります。音やタッチに違和感を覚えた場合には、お買い上げ店、または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

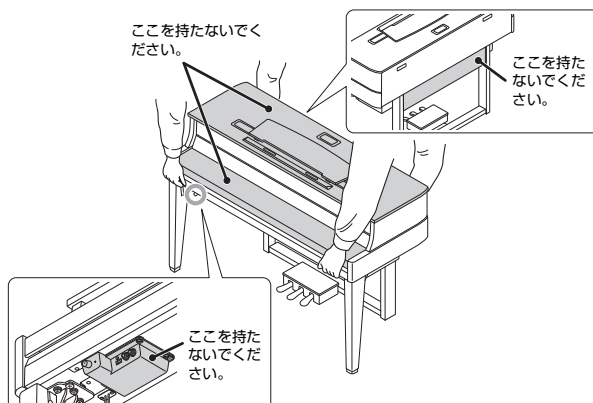
移動と設置

本体は立てかけたり、裏返したりせず、必ず水平にしてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。お引越しの際は、専門の業者にご依頼ください。

⚠ 注意

- ・ 本体を移動する場合は、安全に運べる人数で行なってください。
- ・ 本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。そのときヘッドフォン端子部分やスピーカーネットは持たないようにご注意ください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

より良い音響をお楽しみいただくために、本体の背面を壁から15cm 以上離して設置してください。また、設置後に本体がぐらつく場合は、付属のフェルトをご利用ください。詳しくはフェルトに付属の説明をご覧ください。



ハイブリッドピアノ

AVANT GRAND N1X

100年以上の時を経て得たピアノづくりの経験と、
最新の技術が融合して生まれたアバングランドN1X。
ピアニストが必要とする様々な要素を、
限りなくアコースティックピアノに近づけました。

専用グランドピアノアクションと木製鍵盤による本物のタッチ感

グランドピアノの豊かな表現力は、繊細なタッチ感とレスポンスにより支えられています。アバングランドN1Xは、長年のピアノづくりで培ったノウハウを活かし、グランドピアノのアクション機構そのままの、専用グランドピアノアクションを搭載しています。鍵盤には、グランドピアノと同じ木製鍵盤を採用しており、アコースティックグランドピアノに限りなく近い自然なタッチ感をお楽しみいただけます。また、鍵盤の動きを察知するセンサーは、タッチに影響を与えない非接触型を採用。キーセンサーとハンマーセンサーのふたつのセンサーが、アクションの動きを正確にとらえることで、演奏上の微妙なニュアンスまで表現します。

魅力的なグランドピアノ音で本格的なピアノ演奏を

きらびやかな高音から重厚な低音まで、幅広い芳醇な音色を特長とする、ヤマハ最高峰のコンサートグランドピアノ「CFX」。繊細で温かみのあるウィナートーンで知られている、ベーゼンドルファー社*のフラグシップモデル「インベリアル」。これらをはじめとして、N1Xには魅力的な複数のグランドピアノの音色を搭載しています。

* ベーゼンドルファー社はヤマハのグループ会社です。

ヘッドフォンから感じられる自然な音の広がり ▶▶ 15ページ

この楽器にはヘッドフォン専用のバイノーラルサンプリングの音が搭載されています。バイノーラルサンプリングとは、演奏者の耳と同じ位置に専用のマイクを置き、聞こえてくるピアノの音をそのままサンプリングする方法です。ヘッドフォンを通して聴くと、あたかもピアノ本体から音が響いてくるような臨場感をお楽しみいただけます。

調律なしでベストコンディション

ハイブリッドピアノは、アコースティックピアノとは異なり、調律の必要がありません。長期間のご使用に関わらず、いつでも最良の音で演奏することができます。

練習をサポートする録音/再生機能 ▶▶ 26、28、40ページ

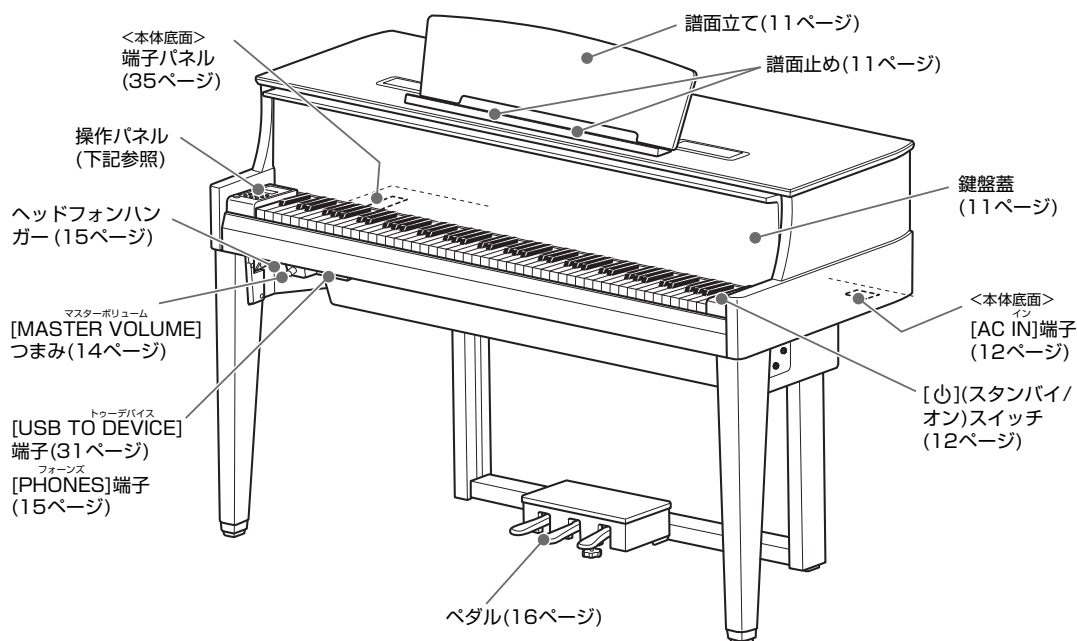
ご自分の演奏を楽器本体やUSBフラッシュメモリーに録音し、再生できます。録音した演奏を客観的に聞き返すことができ、上達につながります。

また、この楽器にはBluetoothオーディオ機能が搭載されています。Bluetooth対応機器と接続すれば、簡単にお手持ちの曲データを楽器で再生することができます。

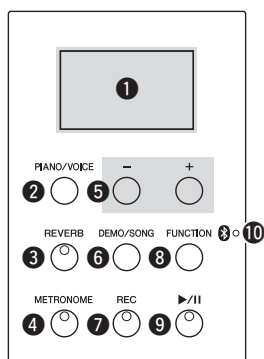
各部の名前

概観

準備



操作パネル



- ① 画面 下記参照
- ② [PIANO/VOICE] ボタン 15、16、17、20、21ページ
- ③ [REVERB] ボタン 22ページ
- ④ [METRONOME] ボタン 19、20ページ
- ⑤ [+] / [-] ボタン
- ⑥ [DEMO/SONG] ボタン 18、26、28ページ
- ⑦ [REC] ボタン 29ページ
- ⑧ [FUNCTION] ボタン 13、22、23、51ページ
- ⑨ [▶/||] (プレイ/ポーズ) ボタン 26、29ページ
- ⑩ (Bluetooth) 40、50ページ

画面

ソング番号や各種設定値を表示します。画面の表示は設定が終わると消えます。



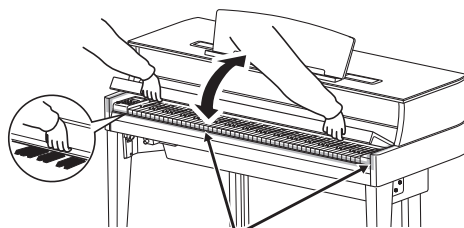
この画面は、英数字でさまざまなメッセージも表示します。詳細は42ページをご覧ください。

音を出してみましょう

準備

鍵盤蓋を開ける/閉める

鍵盤蓋を開けるときは、本体正面のくぼみに手を掛け、鍵盤蓋を持ち上げます。閉めるときは、鍵盤蓋に手を掛け、静かに下ろします。



△ 注意
手や指をはさまないように注意

鍵盤蓋には「ソフトランディング」機構が付いており、鍵盤蓋がゆっくり閉まるようになっています。

△ 注意

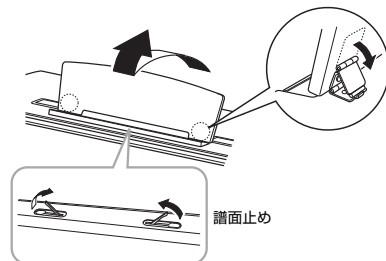
- 鍵盤蓋を開閉するときは、両手で静かに行ない、途中で手を離さないでください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、鍵盤蓋の端と本体の間に手や指をはさまないようご注意ください。
- 鍵盤蓋を閉めるときは無理な力を加えないでください。閉めるときに鍵盤蓋に無理な力を加えると「ソフトランディング」機構が破損し、手指をはさんでけがをするおそれがあります。
- 鍵盤蓋を開けると、鍵盤蓋の上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

譜面立てを使う

立てるとき

- 1 譜面立てを手前に起こします。
- 2 譜面立て裏にある左右2つの金具を下ろします。
- 3 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。

譜面止めを使うと、譜面立てに置いた楽譜のページを固定できます。



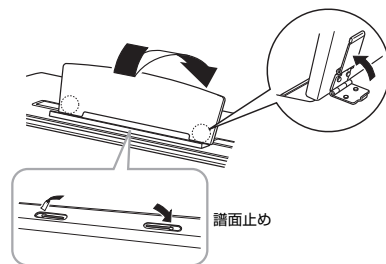
倒すとき

譜面止めを使っている場合は、譜面止めを下ろしてから、以下の手順で譜面立てを倒します。

- 1 譜面立てを手前に起こします。
- 2 譜面立て裏にある左右2つの金具を上げます。
- 3 譜面立てに手を添えて、ゆっくり倒します。

△ 注意

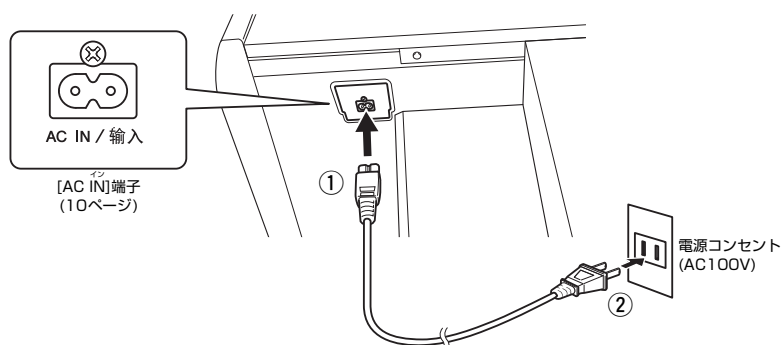
譜面立ては、金具が固定されない位置で使用または放置しないでください。また、譜面立てを立てるとき/倒すときは、途中で手を離さないでください。



電源を入れる/切る

1 図の順序で電源コードを接続します。

[AC IN]^{イン}端子の位置は、「各部の名前」(10ページ)をご確認ください。



NOTE

電源コードを外すときは、電源を切ってから、逆の手順(②→①)で行なってください。

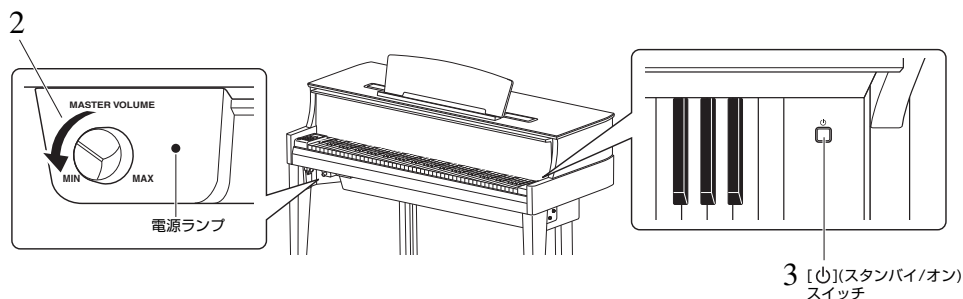
⚠ 警告

- 電源は必ずAC100Vを使用してください。
- 電源コードは必ず付属のものをご使用ください。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。

⚠ 注意

本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

2 [MASTER VOLUME]^{マスターボリューム}つまみを左に回し、音量を最小にします。



3 鍵盤の右側にある[ON](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。

[MASTER VOLUME]つまみの右にある電源ランプが点灯し、画面には起動中を示す表示が現れます。起動が完了すると、画面の表示は消えます。

注記

[ON](スタンバイ/オン)スイッチを入れてから、楽器が完全に起動するまで(約10秒間)は、鍵盤やボタンを押したり、ペダルを踏んだりしないでください。鍵盤の音が正常に出なくなるなど、楽器が誤動作する原因になります。

4 鍵盤を弾いて、音を出してみましょう。

音量は鍵盤を弾いて確かめながら、徐々に上げてください。



5 もう一度[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して(1秒)電源を切ります。

電源ランプがゆっくり消灯します。

⚠ 注意

電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

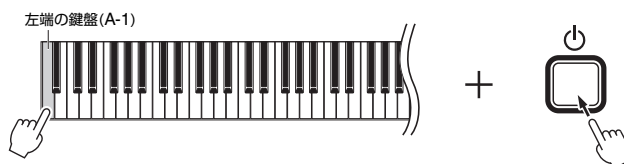
オートパワーオフ機能

この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が15分操作されないと自動的に電源が切れる機能です。

初期設定：On(有効)

オートパワーオフ機能の簡単解除

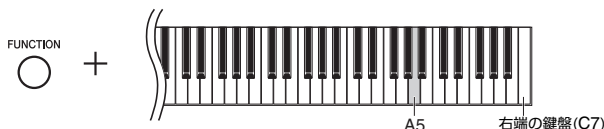
左端の鍵盤を押したまま電源を入ると、オートパワーオフ機能が解除された状態で電源がオンになります。



画面には「P_oF」が表示されます。

オートパワーオフ機能のオン/オフを切り替える

電源が入った状態で、^{ファンクション}[FUNCTION]ボタンを押したままA5の鍵盤を押します。A5鍵盤を押すたびにオン(有効)/オフ(無効)が切り替わります。画面には「On」/「OFF」が表示されます。



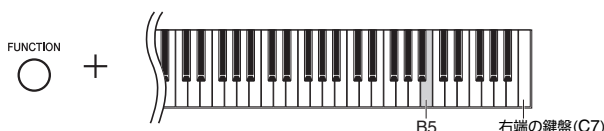
NOTE

ここでの設定は、電源を切っても記憶されています。

楽器のバージョンを確認する

お使いの楽器のバージョンを確認できます。

^{ファンクション}[FUNCTION]ボタンを押したまま、B5の鍵盤を押します。画面に現在のバージョンが表示されます。

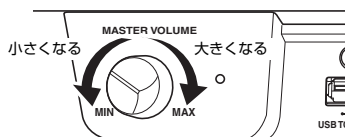


ヤマハ製品では、機能や操作性向上のために、予告なく製品本体のファームウェアをアップデートすることがあります。本体ファームウェアのアップデートや最新情報については、下記ウェブサイトの「ソフトウェア」のページからご覧いただけます。

サポート・お問い合わせ <https://jp.yamaha.com/support/>

音量(マスターボリューム)を調節する

鍵盤を弾いて音を出しながら、[MASTER VOLUME]つまみを左右に回して、全体音量を調節します。



⚠ 注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

インテリジェント・アコースティック・コントロール (IAC)

IACとは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。IACは、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。

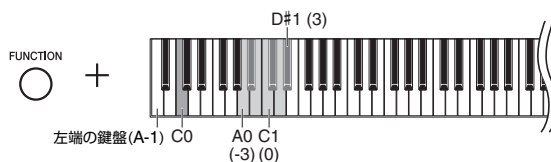
● IACのオン/オフ設定

[FUNCTION] ファンクション ボタンを押したまま、CO鍵盤を押すごとにオン/オフが切り替わります。画面には「On」/「OFF」が表示されます。

初期設定：On(オン)

● IACのかかり具合の調整

[FUNCTION] ボタンを押したまま、A0～D#1 鍵盤のどれかを押して補正のかかり具合を調整します。



設定範囲：-3～3

初期設定：0

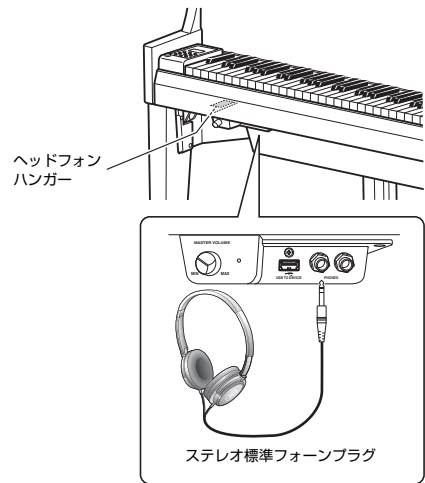
IACのかかり具合の値が大きいくほど、音量が小さいときの低音や高音がよりしっかりと聞こえるように補正されます。

ヘッドフォンを使う

ヘッドフォンを使う場合は、楽器本体底面の左側にある

フォーンズ
[PHONES]端子に接続します。ヘッドフォンを接続すると自動的にスピーカーから音が出なくなります。[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

ヘッドフォンハンガーにはヘッドフォンを掛けることができます。



⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

注記

ヘッドフォンハンガーにヘッドフォン以外のものを掛けないでください。本体またはヘッドフォンハンガーが破損する場合があります。

ヘッドフォンでも自然な音の広がりを実現する —バイノーラルサンプリングとステレオフォニックオプティマイザー—

この楽器では、ヘッドフォン使用時に臨場感のある音をお楽しみいただくため、音色により以下の2つの方式を採用しています。

●バイノーラルサンプリング(音色「CFX グランド」のみ)

バイノーラルサンプリングとは、演奏者の耳と同じ位置に専用のマイクを備え付け、聞こえてくるピアノの音をそのままサンプリングする方式です。ヘッドフォンを通して聴いても、あたかもピアノ本体から音が響いてくるような臨場感をお楽しみいただけます。ヘッドフォンの圧迫感も少なく、長時間の演奏でもストレスなくお楽しみいただけます。初期設定の音色「CFX グランド(17ページ)」を選んでいるときは、ヘッドフォンを接続するとバイノーラルサンプリングの音に切り替わります。

●ステレオフォニックオプティマイザー(「CFX グランド」以外のピアノ音色)

ステレオフォニックオプティマイザーは、ヘッドフォン使用時にバイノーラルサンプリングのような自然な音の広がりを再現するエフェクトです。「CFX グランド」以外のピアノ音色(17ページ音色リスト2～5)を選んでいるときは、ヘッドフォンを接続するとこのステレオフォニックオプティマイザーがかかります。

オン/オフを切り替える

初期設定では、ヘッドフォンを接続すると楽器から出力される音は、バイノーラルサンプリング、またはステレオフォニックオプティマイザーの音に自動的に切り替わります。これらは、ヘッドフォンで最適になるように作られているため、下記のようなケースでは機能をオフにして使用することをおすすめします。

機能オフをおすすめする例：

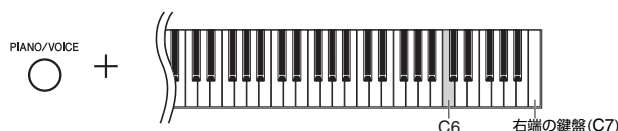
- ・楽器に接続したヘッドフォンでその音をモニターしながら、外部オーディオ機器やミキサーと接続して、楽器の音を外部スピーカーで再生する場合
- ・ヘッドフォンを使用しながらオーディオ録音(28ページ)し、その曲をスピーカーで再生したい場合
(録音した曲をあとでスピーカーで再生したい場合は、録音前から機能オフにしておきます。)

NOTE

外部オーディオ機器を接続する前に、必ず「楽器の音を外部スピーカーから鳴らす—AUX OUT アウト [R][L/L+R]端子」(36ページ)をお読みいただき、機器を正しく接続してください。

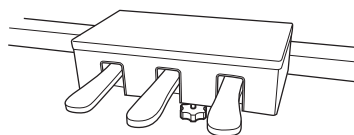
ピアノ ボイス
[PIANO/VOICE]ボタンを押したままC6鍵盤を押してオン/オフを切り替えます。画面には「ON」/「OFF」が表示されます。

初期設定：On(オン)



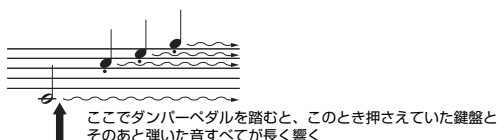
ペダルを使う

ペダルには、右のペダル(ダンパーペダル)とまん中のペダル(ソステヌートペダル)、左のペダル(ソフトペダル)があります。これらはピアノ演奏で使われます。



右のペダル(ダンパーペダル)

このペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても弾いた音を長く響かせることができます。ペダルを踏むのをやめると、すぐに持続している音は止まります。この楽器のダンパーペダルはハーフペダルに対応しています。



●ハーフペダル機能

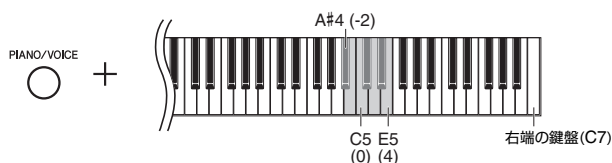
ペダルの踏み加減で音の伸び具合が調節できる機能です。ペダルを踏みこむほど音が長く伸びます。ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える(音の濁りを減らす)ことができます。

●ハーフペダルポイントの設定

どの程度踏み込んだらハーフペダル効果がかかるか(ハーフペダルポイント)を、設定します。

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま、A#4～E5の鍵盤のどれかを押します。

ハーフペダルの効果は、数値(-2～0～4)が小さいほど浅い踏み込み位置でかかり、数値が大きいほど深い踏み込み位置でかかります。



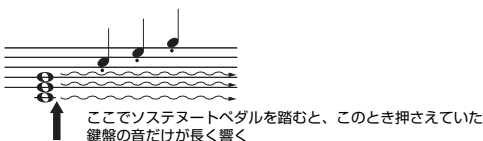
設定範囲：-2～4
初期設定：0

GPレスポンスダンパーペダル

この楽器のダンパーペダルは、ペダルを踏んだときの感覚をよりグランドピアノに近づけたGPレスポンスダンパーペダルです。ハーフペダルのポイントを体感しやすく、ハーフペダル効果をかけやすいのが特長です。

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます(ダンパーペダルが踏まれたかのように)。ただしペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。たとえば他の音をスタッカートで弾いているときに和音を長く響かせることができます。



左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます)。

NOTE

オルガン音色(17ページ音色リスト12～15)では、まん中のペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間、鳴り続けます。

楽器を使いこなす

音色を選ぶ

●CFX グランドの音色を選ぶ

[PIANO/VOICE]^{ピアノ ボイス}ボタンを押して離すと、画面に「1」が表示され、「CFX グランド」が選ばれます。

●他の音色を選ぶ

[PIANO/VOICE]ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押します。下記「音色リスト」の番号順に、音色が切り替わります。

音色リスト

画面	音色名	音色紹介	VRM*
	CFX グランド	4chサンプリング録音されたヤマハ最上位コンサートグランドピアノCFXの音色です。弱く弾いた音から強く弾いた音までの音色変化のダイナミックレンジが広く、表情豊かな演奏ができます。あらゆるジャンル、あらゆる演奏に最適な音色です。ヘッドフォンを接続すると、自動的に「バイノーラル CFX グランド」の音色に変わります。	○
1	バイノーラル CFX グランド	ヤマハ最上位コンサートグランドピアノCFXをヘッドフォン再生に適するようにサンプリング録音した音です。あたかも目の前でグランドピアノが鳴っているかのような臨場感をお楽しみいただけます。「CFX グランド」の音色を選択してヘッドフォンを接続したときに自動的に選ばれます。詳しくは15ページをご覧ください。(その他の音色とは異なり、上記の「音色を選ぶ」の手順でこの音色を選ぶことはできません。)	○
2	ベーゼンドルファー インベリアル	ウィンナートーンで有名なベーゼンドルファー社の最上位グランドピアノの4chサンプリングされた音色です。色彩豊かな音と魅力的な響きが特徴で、曲の優しさを表現するのに最適です。	○
3	ブライト グランド	ブライトなピアノの音です。クリアに音を目立たせたい曲に最適です。	○
4	ベーゼンドルファー グランド	音の立ち上がりが早く華やかなベーゼンドルファー社のグランドピアノ音色です。	○
5	ポップ グランド	弦の金属的キャラクターが特徴的なピアノの音です。ポピュラー音楽などに最適です。	○
6	ステージ エレピ	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。	—
7	DX エレピ	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポピュラー音楽に最適です。	—
8	ピンテージ エレピ	ステージ エレピと異なるタイプの電気ピアノの音です。ロック、ポピュラー音楽によく使われています。	—
9	ハーブシコード 8'	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化はなく、鍵盤を離したときには独特の発音があります。	—
10	ハーブシコード 8'+4'	オクターブ上の音がミックスされたハーブシコードの音です。より華やかさが感じられます。タッチによる音量変化はありません。	—
11	チェレスタ	チェレスタ(鍵盤を弾くと、ハンマーが金属製の音板をたたいて音を出す打楽器)の音です。チャイコフスキーの組曲「くるみ割り人形」の「金平糖の踊り」での印象的なフレーズが有名です。	—
12	オルガン プリンシパル	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。	—
13	オルガン トウッティ	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカブラーの音です。	—
14	ジャズオルガン	歯車回転式電気オルガンの音です。ロータリー SP効果込の豪華なサンプリング音色で、このジャズオルガンは、ロータリー SPがゆっくり回転している音です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。	—
15	オルガン フルート	パイプオルガンのフルート系(木管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート)です。讃美歌の伴奏などに適した柔らかな音です。	—

*VRM：ダンパーペダルを踏んだときや鍵盤を押さえたときの弦の共鳴音を物理モデルによりシミュレーションしたものです。詳しくは21ページをご覧ください。

NOTE

音色の特徴をつかむには、音色ごとのデモ曲を聞いてみてください(18ページ)。

NOTE

チェレスタ音色選択時は、鍵盤演奏は通常より1オクターブ高い音で鳴ります。

音色デモ曲を聞く

この楽器には、すべての音色にふさわしいデモ曲が1曲ずつ入っています。聞いてみましょう。

1 デモ曲を聞きたい音色を選びます。(17ページ)

2 ^{デモ} [DEMO/SONG] ^{ソング} ボタンを押します。

手順1で選んだ音色のデモ曲がスタートします。

再生中のデモ曲の切替

[+]または[-]ボタンを押します。

テンポの調整

デモ曲再生中に、^{メトロノーム} [METRONOME] ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押します。

一時停止

デモ曲再生中に、[▶/II] (プレイ/ポーズ) ボタンを押します。一時停止した位置から再生を再開するには、もう一度 [▶/II] ボタンを押します。

3 もう一度 [DEMO/SONG] ボタンを押して再生をストップします。

デモ曲リスト

画面	音色名	曲名	作曲者
d01	CFX グランド バイノーラル CFX グランド	ベルガマスク組曲 前奏曲	C. A. ドビュッシー
d02	ペーゼンドルフアー インベリアル	コンソレーション 第3番	F. リスト
d03	ブライト グランド	イタリア協奏曲 第1楽章	J. S. バッハ
d04	ペーゼンドルフアー グランド	オリジナル	—
d05	ポップ グランド	オリジナル	—
d06	ステージ エレピ	オリジナル	—
d07	DX エレピ	オリジナル	—
d08	ビンテージ エレピ	オリジナル	—
d09	ハーブシコード 8'	チェンバロ協奏曲 第7番	J. S. バッハ
d10	ハーブシコード 8'+4'	フランス組曲 第5番 ジーグ	J. S. バッハ
d11	チェレスタ	金平糖の踊り (くるみ割り人形)	P. I. チャイコフスキー
d12	オルガン プリンシパル	神のひとり子なる主キリスト (オルガン小曲集)	J. S. バッハ
d13	オルガン トゥッティ	オリジナル	—
d14	ジャズ オルガン	オリジナル	—
d15	オルガン フルート	オリジナル	—

d04~d08、d13~d15の曲は、ヤマハのオリジナル曲です。(©2018 Yamaha Corporation)

NOTE

デモ曲はMIDI送信されません。

NOTE

再生に合わせて、自分で鍵盤を弾くこともできます。

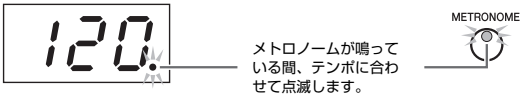
NOTE

「バイノーラル CFX グランド」は、「CFX グランド」の音色を選択してヘッドフォンを接続したときに自動的に選ばれます。詳しくは17ページの「音色リスト」をご覧ください。

メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)機能を備えています。

- 1 ^{メトロノーム} [METRONOME] ボタンを押してメトロノームを鳴らします。
メトロノームが鳴っている間、画面に表示されている右端の点と [METRONOME] のランプがテンポに合わせて点滅します。

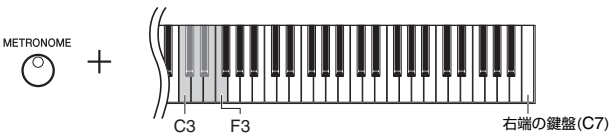


NOTE
操作後しばらくすると、画面のテンポ表示は消えます。

- 2 もう一度 [METRONOME] ボタンを押してメトロノームを止めます。

拍子の設定

[METRONOME] ボタンを押したまま、C3～F3鍵盤のどれかを押します。この間、画面にはメトロノームの拍子が表示されます。



初期設定：拍子なし

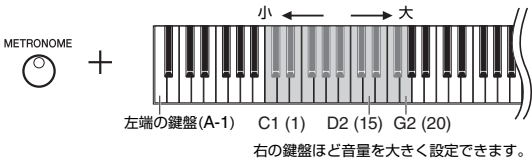
NOTE
メトロノームの拍子は、電源を切ると初期設定に戻ります。

画面	鍵盤	拍子
0	C3	拍子なし
2	C#3	2
3	D3	3
4	D#3	4
5	E3	5
6	F3	6

最初の拍で「チーン」と鳴り、その他の拍では「カチカチ」と鳴ります。たとえば3に設定すると「チーンカチカチ」と鳴ります。拍子なしの場合は、すべての拍で「カチカチ」と鳴ります。

メトロノームの音量の調節

[METRONOME] ボタンを押したまま、C1～G2鍵盤のどれかを押して音量を設定します。この間、画面にはメトロノームの音量が表示されます。



設定範囲：1～20
初期設定：15

NOTE
メトロノームの音量は、メトロノームが鳴っている間も調節できます。

テンポを調節する

メトロノームのテンポを調節できます。また、MIDIソング(25ページ)再生中はそのテンポを、オーディオソング(25ページ)の再生中は、その再生速度を調節できます。

●1ずつ上げる/下げる

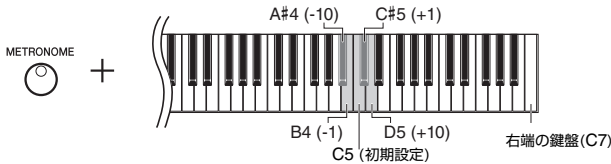
[METRONOME]^{メトロノーム}ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押します。または、[METRONOME]ボタンを押したまま、C#5(上げる)またはB4鍵盤(下げる)を押します。メトロノームのみが鳴っているときは、[+]または[-]ボタンを押します。

●10ずつ上げる/下げる

[METRONOME]ボタンを押したまま、D5(上げる)またはA#4鍵盤(下げる)を押します。

●初期設定に戻す

[METRONOME]ボタンを押したまま、C5鍵盤、または[+]と[-]ボタンを同時に押します。メトロノームのみが鳴っているときは、[+]と[-]ボタンを同時に押します。



NOTE

オーディオソング(25ページ)の再生中は、メトロノームのテンポの調節はできません。

メトロノーム

設定範囲：5～500(1分間の拍数)
初期設定：120

MIDIソング

設定範囲：5～500(1分間の拍数)
初期設定：ソングにより異なります。

オーディオソング

設定範囲：75%～125%
初期設定：100%

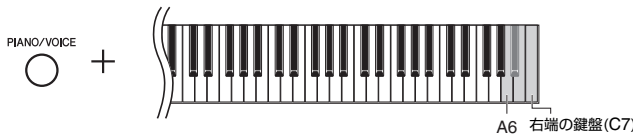
NOTE

メトロノームのテンポは、電源を切ると初期設定に戻ります。

タッチ感度を変える

鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感度)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

[PIANO/VOICE]^{ピアノ ボイス}ボタンを押したまま、A6～C7の鍵盤のどれかを押してタッチ感度を設定します。この間、画面にはタッチの番号が表示されます。



画面	鍵盤	タッチ感度	説明
0FF	A6	フィックス	弱く弾いても強く弾いても鳴る音の強弱は変わりません。
1	A#6	ソフト	軽いタッチで大きい音を出すことができます。
2	B6	ミディアム	標準的なピアノタッチです。
3	C7	ハード	強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。

初期設定：2(ミディアム)

NOTE

タッチ感度の設定は、電源を切ると初期設定に戻ります。

NOTE

鍵盤自体の重さは変わりません。

VRM機能を使った共鳴音を楽しむ

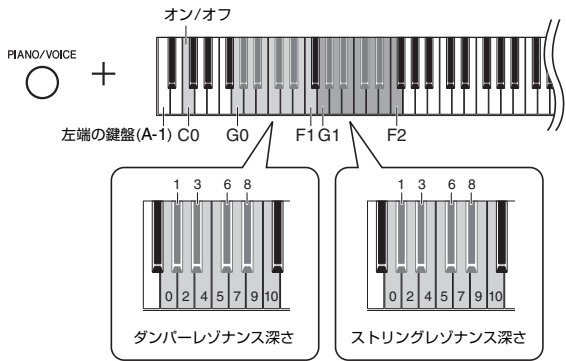
アコースティックピアノでは、ダンパーペダルを踏んで演奏すると、弾いた鍵盤の音が伸びるだけでなく、その鍵盤の弦の振動が他の弦や響板へ伝わっていき、それぞれが影響しあって豊かで華やかな共鳴音が広がります。この楽器に搭載されたVRMは、そのような弦と響板の複雑な相互作用を、仮想的な楽器(物理モデル)の上で忠実に再現することで、よりアコースティックピアノに近い響きを作り出します。鍵盤やペダルの状態に合わせて、瞬間瞬間の共鳴音を作り出しているの、鍵盤を押さえるタイミングや、ペダルを踏むタイミングと深さを変えることで、多彩な響きが得られます。

初期設定ではこの機能はオンです。対象の音色(17ページ)を選んで演奏するだけで、VRMの共鳴効果を楽しめます。また、オン/オフを切り替えたり、効果のかかり具合を調節したりできます。

VRM=Virtual Resonance Modeling(バーチャル・レゾナンス・モデリング)

VRM機能のオン/オフの切り替え

ピアノ ボイス
[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま、C0鍵盤を押します。C0鍵盤を押すたびに、オン/オフが切り替わります。



VRM共鳴効果のかかり具合の調節

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま、G0～F1 鍵盤または G1～F2 鍵盤のどれかを押してVRM共鳴効果のかかり具合を設定します。この間、画面には設定値が表示されます。

画面	鍵盤	設定項目	説明
0 ~ 10	G0～F1	ダンパーレゾナンス 深さ	ダンパーペダルを踏んだときに加わる共鳴効果のかかり具合を設定します。
0 ~ 10	G1～F2	ストリングレゾナンス 深さ	鍵盤を演奏したときに加わる共鳴効果のかかり具合を設定します。

初期設定 : 5

初期設定 : 5

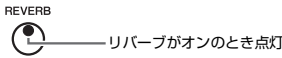
NOTE
VRM共鳴効果のかかり具合の設定は、電源を切ると初期設定に戻ります。

音に残響を付ける(リバーブ)

ホールの響きを再現した残響効果をかけることができます。また、そのかかり具合を変えることもできます。

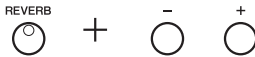
リバーブのオン/オフの切り替え

[REVERB]^{リバーブ}ボタンを押して、リバーブのオン/オフを切り替えます。



リバーブのかかり具合の調整

[REVERB]ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押して、リバーブのかかり具合を設定します。この間、画面にはリバーブのかかり具合が表示されます。



[REVERB]ボタンを押したまま、[+]と[-]ボタンを同時に押すと、初期設定に戻ります。

設定範囲：1～20
初期設定：5

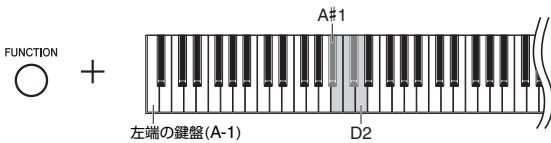
NOTE
リバーブのかかり具合は、電源を切ると初期設定に戻ります。

NOTE
[REVERB]ボタンを押している間は、リバーブの設定値が表示されます。

音の明るさ(ブリリアンス)を調節する

音の明るさ(ブリリアンス)を調節します。

[FUNCTION]^{ファンクション}ボタンを押したまま、A#1～D2の鍵盤のどれかを押して音の明るさを設定します。この間、画面には設定値が表示されます。



画面	鍵盤	音の明るさ (ブリリアンス)	説明
1	A#1	×ロー2	やわらかく、まろやかな音になります。
2	B1	×ロー1	×ロー2と標準の中間の明るさです。
3	C2	標準	標準的な明るさです。
4	C#2	ブライト1	ブライト2と標準の中間の明るさです。
5	D2	ブライト2	明るく、鋭い音になります。

初期設定：3(標準)

キー (調) を変える (トランスポーズ)

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さで半音単位でキー (調) を合わせることができます。この機能をトランスポーズ (移調) といいます。

たとえばトランスポーズを「+5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。

●半音単位でキーを下げる

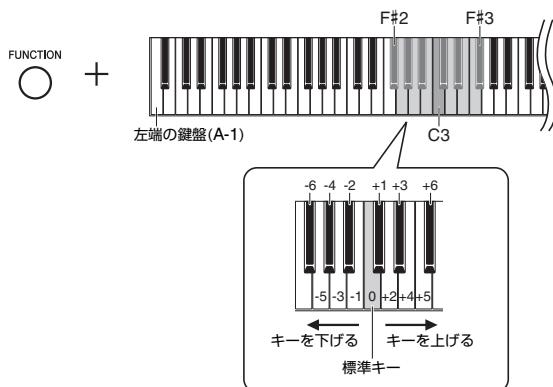
[FUNCTION]
ファンクション ボタンを押したまま、F#2(-6)～B2(-1)鍵盤のどれかを押します。

●半音単位でキーを上げる

[FUNCTION] ボタンを押したまま、C#3(+1)～F#3(+6)鍵盤のどれかを押します。

●元のキーに戻す

[FUNCTION] ボタンを押したまま、C3鍵盤を押します。



操作中は、画面には設定した値が表示されます。

初期設定：0 (標準キー)

設定範囲：-6～6

NOTE

トランスポーズ量は、電源を切ると初期設定に戻ります。

音の高さを微調整する (チューニング)

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

操作中は、画面に音の高さ (Hz) が表示されます (100の位は表示されません)。

●音の高さを上げる (約0.2Hz単位)

[FUNCTION]
ファンクション ボタンを押したまま[+]ボタンを押します。

●音の高さを下げる (約0.2Hz単位)

[FUNCTION] ボタンを押したまま[-]ボタンを押します。

●初期設定に戻す

[FUNCTION] ボタンを押したまま、[+]と[-]ボタンを同時に押します。

42.0

例：442.0Hzの場合

NOTE

操作後しばらくすると、画面表示は消えます。

NOTE

チューニング値は、電源を切っても記憶されています。

Hzとは

音の高さを示す単位です (音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです)。

設定範囲：414.8～466.8Hz
(=A3)

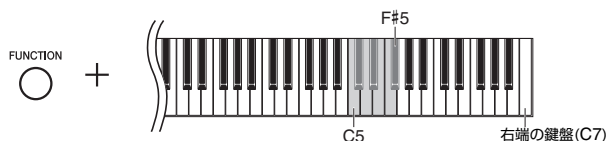
初期設定：440.0Hz(=A3)

音律(調律法)を設定する

音律(調律法)を選ぶ機能です。現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共にさまざまな音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。

音律の選択

[FUNCTION] ファンクション ボタンを押したまま C5～F#5 鍵盤のどれかを押します。この間、画面には音律番号が表示されます。



画面	鍵盤	音律	説明
1	C5	平均律	1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーな、ピアノの調律法です。
2	C#5	純正律 長調	自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどにみられます。
3	D5	純正律 短調	
4	D#5	ピタゴラス音律	ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた、5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。
5	E5	中全音律	ピタゴラス音律の3度のうなりをなくすために改良された音律です。16世紀後半から18世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。
6	F5	ヴェルクマイスター音律	中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、それぞれの組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の曲をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。
7	F#5	キルンベルガー音律	

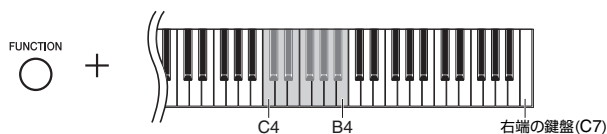
初期設定：1 (平均律)

NOTE

音律は、電源を切ると初期設定に戻ります。

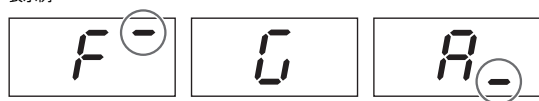
音律の基準となる音(ベース音)の選択

[FUNCTION] ボタンを押したまま、C4～B4鍵盤のどれかを押してベース音を設定します。この間、画面にはベース音が表示されます。



鍵盤	ベース音	鍵盤	ベース音	鍵盤	ベース音	鍵盤	ベース音
C4	C	D#4	E♭	F#4	F#	A4	A
C#4	C#	E4	E	G4	G	A#4	B♭
D4	D	F4	F	G#4	A♭	B4	B

表示例



F#
(シャープのとき上に「#」)

G

A♭
(フラットのとき下に「-」)

初期設定：C

NOTE

ベース音は、電源を切ると初期設定に戻ります。

曲(ソング)を再生する

この楽器では、楽器に内蔵されているソングや、^{トウーデバイス}[USB TO DEVICE]端子に接続したUSBフラッシュメモリーに保存されているソングを再生できます。この楽器で再生できるソングには、^{ミディ}MIDIソングとオーディオソングの2種類があります。

●再生できるソングのデータ形式

ソング	MIDIソング 鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記録され、音そのものは記録されません。記録された演奏情報にもとづいて、(電子ピアノなどの)音源部が鳴ることではじめて音になります。データ容量が小さく、また、音色の変更などの編集がしやすいのが特長です。	オーディオソング オーディオソングは、演奏した音そのものを記録したデータです。カセットテープやボイスレコーダーなどに録音するのと同じくみで記録したものです。携帯音楽プレーヤーなどでも再生できるので、ほかの人に自分の演奏を聞いてもらうことが手軽にできます。
フォーマット	SMF(Standard MIDI File)フォーマット0と1 MIDIソングの代表的なフォーマットです。この楽器で録音したMIDIソングはSMFフォーマット0で保存されます。	WAVフォーマット 一般にコンピューターで使われるオーディオ(音声)データの記録方式のひとつです。この楽器では、44.1kHz、16bitのステレオWAVファイルが再生できます。この楽器で録音したオーディオソングはこの形式で保存されます。
拡張子	.MID	.WAV

NOTE

この楽器に入っていない音色を含むMIDIソング(XGやGMソングなど)を再生すると、本来の音色が再現されません。また、この楽器の音源で扱えるMIDIチャンネルは1~2だけなので、3~16チャンネルの演奏データは鳴りません。したがって、MIDI1~2チャンネルにピアノ演奏が割り当てられたソングを再生することをおすすめします。

この楽器で再生できるソング

ソングカテゴリーリスト (XXは数字を表します。)

ソングカテゴリー		ソング番号	説明
d.XX	音色デモ曲(MIDIソング)	d0 1~d.15	この楽器に内蔵されている音色デモ曲(18ページ)です。
P.XX	プリセットソング(MIDIソング)	P0 1~P.10	この楽器に内蔵されているプリセットソング10曲(44ページ)です。
R.XX*	USBフラッシュメモリーに保存したオーディオソング	R00~R99	この楽器で録音(28ページ)したユーザーソングです。
L.XX**		L00~L99**	市販のオーディオソングやコンピューターで編集した外部ソングです。
S.XX*	USBフラッシュメモリーに保存したMIDIソング	S00~S99	この楽器で録音(28ページ)したユーザーソングです。
F.XX**		F00~F99**	市販のMIDIソングやコンピューターで編集した外部ソングです。
U.XX	楽器本体の内部メモリーに保存したMIDIソング	U0 1~U.10	この楽器本体の内部メモリーに録音(28ページ)したユーザーソングです。
		L00~L99**	市販のMIDIソングやコンピューターで編集したMIDIソングを、コンピューターからこの楽器本体の内部メモリーへ転送した外部ソングです。コンピューターとの接続方法については、38ページをご覧ください。

* USBフラッシュメモリーを接続しているときのみ画面に表示されます。これ以外の表示が画面に表示された場合は、42ページの「メッセージ一覧」をご覧ください。

** 対象データがない場合は表示されません。

●ユーザーソングと外部ソング

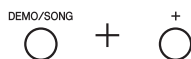
この楽器で録音したソングを「ユーザーソング」といいます。この楽器以外で作られたソングを「外部ソング」といいます。

USBフラッシュメモリーでは、「USER FILES」フォルダー内のソングは、^{ユーザーファイル}ユーザーソングとして扱われます。「USER FILES」フォルダー以外にあるソングは、外部ソングとして扱われます。この楽器でUSBフラッシュメモリーにソングを録音すると、「USER FILES」フォルダーが自動的に作成され、このフォルダーにユーザーソングが保存されます。

ソングを再生する

USBフラッシュメモリーに入っているソングを再生したい場合は、「USB機器を接続する」(31ページ)を読み、USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]^{トウデバイス}端子に接続してから下記手順に従ってください。

- 1 ^{デモ} [DEMO/SONG] ボタンを押したまま ^{ソング} [+] ボタンを押して、ソングカテゴリー (25ページ) を選びます。



NOTE

画面には、 $d.XX \rightarrow P.XX \rightarrow (R.XX) \rightarrow (L.XX) \rightarrow (S.XX) \rightarrow (F.XX) \rightarrow U.XX \rightarrow d.XX$ の順に表示されます。 $R.XX$ 、 $L.XX$ 、 $S.XX$ 、 $F.XX$ は、USBフラッシュメモリーを接続しているときのみ画面に表示されます。また $L.XX$ 、 $F.XX$ はデータがない場合は表示されません。

- 2 [+] または [-] ボタンを押して、ソング番号 (25ページ「ソングカテゴリーリスト」参照)、または「* $r d$ 」(ランダム)、「* $R L$ 」(オール) を選びます。

- ソング番号 聞きたいソングを1曲指定して再生します。
- * $r d$ (ランダム) 選んだソングカテゴリー内のソングを順不同に連続再生します。
- * $R L$ (オール) 選んだソングカテゴリー内のソングをすべて順番に連続再生します。

*は d 以外のソングカテゴリーのいずれかです。

NOTE

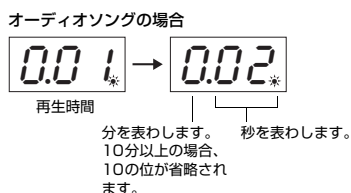
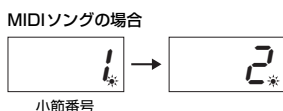
デモ曲はランダム再生、オール再生できません。

NOTE

- USBフラッシュメモリー内のソングを選ぶとき、保存されているフォルダー数によっては、画面が表示されるまで時間がかかる場合があります。
- この楽器で選択/再生できるソングファイルは、USBフラッシュメモリーの3階層目に保存されたファイルまでです。詳しくは32ページをご覧ください。

- 3 [▶/||] (プレイ/ポーズ) ボタンを押して再生をスタートさせます。

スタート後、画面に再生中の小節番号(MIDIソング)または再生時間(オーディオソング)が表示されます。



一時停止や早戻し/早送りなどの操作については、27ページの「ソング再生中の操作」をご覧ください。

NOTE

- デモ曲再生中は、画面に小節番号は表示されません。
- MIDIソング再生中は鍵盤演奏の音色がMIDIソングの音色に変わります。ソング再生を停止すると鍵盤演奏はもとの音色に戻ります。
- チェレスタの音色(17ページ)を選択後、MIDIソングを再生しながら鍵盤を演奏すると、鍵盤演奏は通常より1オクターブ高い音で鳴ります。
- メトロノームを鳴らしながら再生することもできます。再生をストップすると、メトロノームも同時に止まります。
- USBフラッシュメモリーに保存した外部ソングは、曲名の数字、アルファベット、50音の順に再生されます。

- 4 [DEMO/SONG] ボタンを押して再生をストップします。

手順2でソング番号を指定して再生した場合は、1曲の再生が終了すると同時にストップします。

ソング再生中の操作

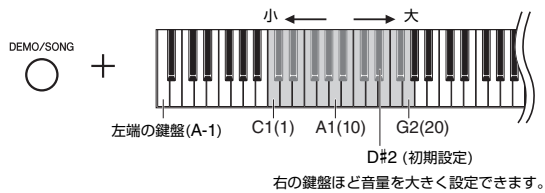
テンポの調節^{ミディ}(MIDIソング)、再生速度の調節(オーディオソング)

MIDIソング再生中はそのテンポを、オーディオソング再生中はその再生速度を変えられます。

[METRONOME]^{メトロノーム}ボタンを押したまま[+]/[-]ボタン、またはC#5/B4鍵盤を押して変更します。元に戻す場合は、[METRONOME]ボタンを押したまま[+]と[-]ボタンを同時に押します。詳しくは20ページをご覧ください。

音量の調節(オーディオソングのみ)

本体以外で録音したオーディオソングや市販のオーディオソングの音量は、鍵盤演奏の音量とバランスが合わない場合があります。その場合は、[DEMO/SONG]^{デモ ソング}ボタンを押したまま、C1~G2鍵盤のどれかを押すことで、ソングの音量を調節しましょう。



一時停止

再生中に[▶/||](プレイ/ポーズ)ボタンを押すと、再生が一時停止します。また、画面表示が静止し、[▶/||]ボタンが点滅します。一時停止した位置からソングを再生するには、もう一度[▶/||]ボタンを押します。

早戻し/早送り

再生中に[-]/[+]ボタンを押すと、ボタンを押している間、早戻し/早送りします。MIDIソングの場合は小節単位、オーディオソングの場合は秒単位で早戻し/早送りします。

曲の先頭に戻る

再生中に[+]と[-]ボタンを同時に押すと、曲の先頭に戻ります。

MIDIソング

設定範囲：5～500(1分間の拍数)
初期設定：ソングにより異なります。

オーディオソング

設定範囲：75%～125%
初期設定：100%

設定範囲：1～20
初期設定：16

NOTE

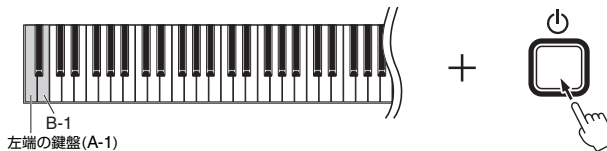
デモ曲は早戻し/早送り、曲の先頭に戻す操作はできません。

文字種の設定

この楽器で曲が読み込めない場合は、ファイル名やフォルダー名の文字種に問題があることがあります。下記の2つの文字種から選択して設定してください。

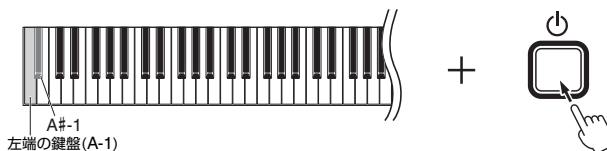
● 日本語

日本語やアルファベットを読み込めます(ウムラウトは読み込めません)。A-1の鍵盤とB-1の鍵盤を押したまま、電源を入れます。



● インターナショナル

アルファベットやウムラウトを読み込めます(日本語は読み込めません)。A-1の鍵盤とA#-1の鍵盤を押したまま、電源を入れます。



設定範囲：JA(日本語)/
Int(インターナショナル)

初期設定：JA(日本語)

演奏を録音する

自分の演奏を、下記いずれかの方法で録音してみましょう。録音した演奏はユーザーソング(25ページ)として保存されるので、再生させて聞いてみましょう。

●MIDI録音

録音した演奏をSMF(フォーマット0)のMIDIソングとして、楽器本体の内部メモリーまたはUSBフラッシュメモリーに保存します。この楽器には、10曲まで録音できます。

●オーディオ録音

演奏をオーディオソングとしてUSBフラッシュメモリーに保存します。一般的なCD音質のステレオWAV形式で保存されるので、コンピューターを使って携帯音楽プレーヤーなどに転送して再生できます。録音可能時間はUSBフラッシュメモリーの容量によって異なります。

1 必要に応じて、USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子^{トリーデバイス}へ接続します。

USBフラッシュメモリーが必要な場合

MIDIソングの録音先は、楽器本体の内部メモリーまたはUSBフラッシュメモリーで、オーディオソングの録音先は、USBフラッシュメモリーのみです。必要に応じて、USBフラッシュメモリーを準備し、「USB機器を接続する」(31ページ)をお読みください。

NOTE

オーディオ録音の場合は、4チャンネルサンプリングされたピアノ音色もステレオ(2チャンネル)で録音されます。

NOTE

USBフラッシュメモリーを接続したときに、何らかのメッセージが画面に表示された場合は、42ページの「メッセージ一覧」をご覧ください。

NOTE

ヘッドフォンを接続して、オーディオ録音し、その曲をスピーカーで再生したい場合は、録音前にバイノーラルサンプリング/ステレオフォニックオプティマイザーをオフにすることをおすすめします。詳しくは15ページをご覧ください。

NOTE

MIDI録音したソングはオーディオソングに変換できません。

NOTE

以下の状態のときは、録音できません。

- ・ソング再生中(26ページ)
- ・USBフラッシュメモリーのフォーマット中(32ページ)、ソングのコピー中(33ページ)と削除中(30ページ)

2 録音方法を選びます。

●MIDI録音したい場合

[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、画面に「U**」(内部メモリーに保存)または「S**」(USBフラッシュメモリーに保存)が表示されるまで、[+]または[-]ボタンを押します。

●オーディオ録音したい場合

[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、画面に「R**」(USBフラッシュメモリーに保存)が表示されるまで[+]または[-]ボタンを押します。



3 [+]または[-]ボタンを押して、ソング番号を選びます。

- ・U01~U10 この楽器の内部メモリー内のユーザーソング(MIDI)
- ・S00~S99 USBフラッシュメモリー内のユーザーソング(MIDI)
- ・R00~R99 USBフラッシュメモリー内のユーザーソング(オーディオ)

●選んだソングに録音データがある場合

選んだソングにすでに録音データがあるかどうか、画面表示で確認できます。

録音データがある場合



3つの点が点灯

録音データがない場合



左端の1点のみ点灯

注記

すでにデータのあるソングに録音すると、それまで録音されていたデータは消えますのでご注意ください。

4 録音に使う音色(17ページ)や、拍子(19ページ)などを設定します。

5 ^{レック} [REC] ボタンを押して録音モードに入ります。

[REC]のランプが点灯します。また、[▶/II](プレイ/ポーズ)のランプがテンポに合わせて点滅します。



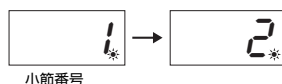
録音をキャンセルする場合は、もう一度[REC]ボタンを押します。

6 録音をスタートします。

鍵盤を弾く、または[▶/II]ボタンを押して録音をスタートさせます。

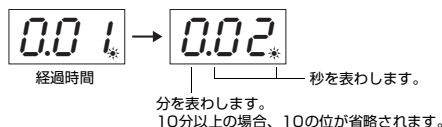
●^{ミディ}MIDI録音の場合

録音中、画面には小節番号が表示されます。



●オーディオ録音の場合

録音中、画面には録音の経過時間が表示されます。



メトロノームを使う

メトロノームを使いながら録音することもできます。ただし、メトロノームの音は録音されません。

空き容量が少ない場合

本体内部メモリーやUSBフラッシュメモリーの空き容量が少ない場合は、[REC]ボタンを押したあとに「End」または「FUL」(42ページ)と表示されます。「End」が表示された場合、録音はスタートできますが、演奏データを保存できなかったり、録音途中で自動的にストップしたりすることがあります。「FUL」と表示された場合は、録音をスタートできません。いずれの場合も、あらかじめ不要なファイルを削除(30ページ)して、空き容量を確保することをおすすめします。

NOTE

オーディオ録音の場合、[AUX IN]^{イン}端子からの入力音(35ページ)や、USBオーディオインターフェース機能(40ページ)とBluetooth^{ブルートゥース}オーディオ機能(40ページ)によるオーディオ入力音も録音されます。

7 [▶/II]または[REC]ボタンを押して録音をストップします。

録音をストップすると、「-」が流れて表示され保存中であることを示します。保存が終わると、「End」が表示され、録音モードは自動的に解除されます。

注記

「-」が流れて表示されているときに、電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。外部ソングを含むすべてのソングデータ(25ページ)が消去されるおそれがあります。

8 [▶/II]ボタンを押して、録音した演奏を再生します。

再生をストップするには、[DEMO/SONG]^{デモ}ボタンを押します。

一時停止や早戻し/早送りなどの操作については、27ページの「ソング再生中の操作」をご覧ください。

NOTE

本体に録音したユーザーソングはUSBフラッシュメモリーにコピーできます(33ページ)。

録音先を指定せずに録音モードに入った([REC]ボタンを押した)場合

[REC]ボタンを押したときに選ばれていたソングに録音されます。

注記

すでにデータのあるソングに録音すると、それまで録音されていたデータは消えますのでご注意ください。

[REC]ボタンを押したとき、下記のソングが選ばれている場合は、ユーザーソング(25ページ)に録音されます。

- ・ 外部オーディオソング「^{ソング}L.XX」.....「^{デモ}R.XX」に録音されます。
- ・ USBフラッシュメモリーに保存した外部MIDIソング「^{ソング}F.XX」.....「^{デモ}S.XX」に録音されます。
- ・ 楽器本体の内部メモリーに保存した外部MIDIソング「^{ソング}L.XX」.....「^{デモ}U.XX」に録音されます。
- ・ 音色デモ曲「^{ソング}d.XX」、プリセットソング「^{ソング}P.XX」.....「^{デモ}U.XX」に録音されます。

このとき、録音対象となるソング番号は、R、S、Uの各ソングカテゴリーの、データが入っていない(空の)最も小さいソング番号になります。

空のユーザーソングがないときは、「^{デモ}R00」、「^{デモ}S00」、または「^{デモ}U01」が録音対象になります。

録音したソングを削除する

楽器本体の内部メモリーやUSBフラッシュメモリーに録音したユーザーソング(25ページ)を削除できます。

- 1 必要に応じて、USBフラッシュメモリーを^{トウーデバイス} [USB TO DEVICE] 端子へ接続します。

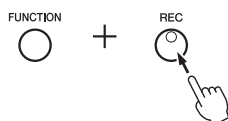
NOTE

USBフラッシュメモリーを接続したときに、何らかのメッセージが画面に表示された場合は、42ページの「メッセージ一覧」をご覧ください。

- 2 削除するソングを選びます。

ソングの選択方法は、26ページをご覧ください。

- 3 ^{ファンクション} [FUNCTION] ボタンを押したまま ^{レック} [REC] ボタンを押します。



「dEL」が表示されたあと、「n y」(no/yes)が表示されます。ソングの削除をキャンセルする場合は、[-]ボタンを押します。

- 4 [+]ボタンを押して削除を実行します。

画面に「-」が流れ、削除の実行中を示します。削除が終わると、「End」が表示されます。

注記

「-」が流れて表示されているときは、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを取り外したりしないでください。USBフラッシュメモリーの中のすべてのデータが壊れるおそれがあります。

NOTE

手順3を実行するとソング再生ができなくなります。削除したいソングの確認再生は、手順3へ進む前に済ませてください。

NOTE

コンピューターを使って楽器に保存した外部ソングは、この方法では削除できません。コンピューターを使って削除してください。

USBフラッシュメモリーを使う

USBフラッシュメモリーを楽器に接続すると以下のことができます。

- USBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)する..... 32ページ
- USBフラッシュメモリー内の曲を再生する..... 25ページ
- USBフラッシュメモリーに録音する..... 28ページ
- 楽器に録音したユーザーソングをUSBフラッシュメモリーにコピーする..... 33ページ

NOTE

- USBフラッシュメモリー内のソングを削除する場合は、30ページをご覧ください。
- ソングの再生中、録音中は以下の操作はできません。
 - USBフラッシュメモリーのフォーマット(32ページ)
 - ソングのコピー (33ページ)
 - ソングの削除(30ページ)

USB機器を接続する

トウデバイス

[USB TO DEVICE] 端子で使用上の注意

本機には[USB TO DEVICE]端子があります。[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■使用できるUSB機器

- USBフラッシュメモリー
- USB無線LANアダプター (UD-WL01、別売)

上記以外のUSB機器(USBハブ、マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

動作確認済みUSB機器については、下記ウェブサイトの「資料／データ」から、モデル名を入力すると確認できます。ご購入の前に確認ください。

サポート・お問い合わせ：

<https://jp.yamaha.com/support/>

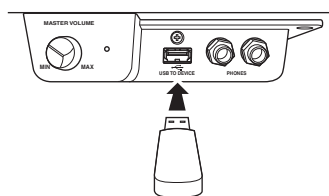
本機では、USB1.1～2.0の機器がご使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なりますのでご了承ください。

注記

[USB TO DEVICE]端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

■USB機器の接続

[USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



注記

- USB機器の抜き差しは、再生や録音中、ファイル操作中(保存/コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行なわないでください。楽器本体の機能が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を空けて行なってください。
- USB機器の接続にはケーブルは使用できません。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で制作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを楽器本体で再生したりできます。

■接続できるUSBフラッシュメモリーの数

同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは、1台までです。

■USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーは本機でフォーマット(32ページ)することをおすすめします。他の機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリーは、本機で正しく動作しない場合があります。

注記

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■USBフラッシュメモリー接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生/録音やファイル操作(保存/コピー/削除/フォーマットなど)によるUSBフラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。

USBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)する

注記

フォーマットを実行するとUSBフラッシュメモリーに保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、ほかの記憶装置に保存しておいてください。

- 1 [USB TO DEVICE]^{トウデバイス}端子にUSBフラッシュメモリーを接続します。
- 2 [FUNCTION]^{ファンクション}ボタンと[▶/||]^{ストップ}(プレイ/ポーズ)ボタンを押したまま[REC]ボタンを押します。

「For」が表示されたあと、「n y」(no/yes)が表示されます。
この操作をキャンセルする場合は、[-]ボタンを押します。



NOTE

ソング録音(28ページ)やコピー(33ページ)、削除(30ページ)を実行しようとする、画面に「U n F」(USBフラッシュメモリーが未フォーマット)が表示されることがあります。その場合は、左記手順2から、フォーマット操作を進めてください。

- 3 [+]^{プラス}ボタンを押してフォーマットを実行します。

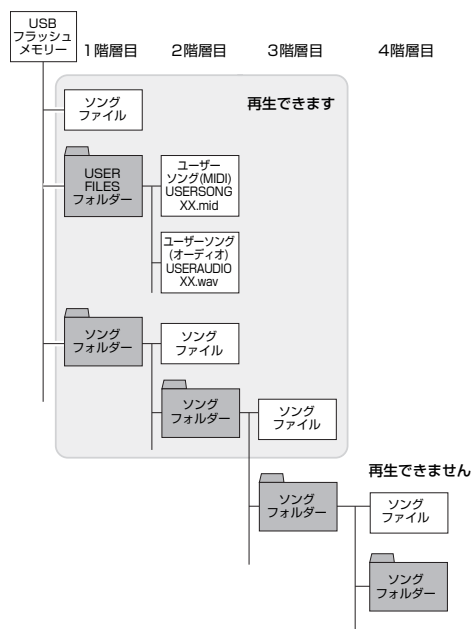
画面に「-」が流れ、フォーマットの実行中を示します。
フォーマットが終わると、「End」が表示されます。

注記

「-」が流れて表示されているときは、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを取り外したりしないでください。USBフラッシュメモリー内のデータが壊れたり、正常にフォーマットが行なわれないおそれがあります。

USBフラッシュメモリー内でのファイル管理

コンピューターなどでUSBフラッシュメモリー内のソングファイルを管理する場合、外部ソングのファイルは3階層までに保存してください。これより下の階層のフォルダーに保存されたソングは、この楽器では選択/再生できません。また、この楽器で認識できる外部ソングの数はMIDIソング100曲までと、オーディオソング100曲までです。



楽器に録音したユーザーソングをUSBフラッシュメモリーにコピーする

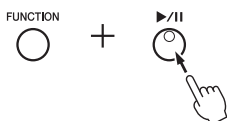
この楽器に保存されているユーザーソングをUSBフラッシュメモリーにコピーします。コピーしたソングは、USBフラッシュメモリー内の「^{ユーザーファイルズ}USER FILES」フォルダーにユーザーソングとして保存され、自動的に「USERSONG**.MID」(**は数字)というファイル名が付けられます。

1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]^{トウデバイス}端子に接続します。

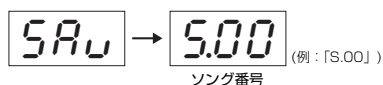
2 コピーしたい楽器内のユーザーソングを選びます。

詳しくは、25ページをご覧ください。

3 ^{ファンクション}[FUNCTION] ボタンを押したまま [▶/II] (プレイ/ポーズ) ボタンを押します。



画面に「SRU」が表示されたあと、コピー先となる空いているユーザーソング内で最も小さいソング番号(例:「500」)が表示されます。



コピー操作をキャンセルするには、この間に[▶/II]ボタン以外のボタンを押します。

4 [▶/II] ボタンを押して、コピー操作を実行します。

画面に「-」が流れ、コピーの実行中を示します。

コピーが終わると、「End」が表示されます。

注記

「-」が流れて表示されているときは、電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを取り外したりしないでください。USBフラッシュメモリーの中のデータが壊れるおそれがあります。

NOTE

手順2でユーザーソングを選ばなかった場合、手順3の操作で「Pro」が表示され、コピーは実行されません。このような場合、手順2に戻ってユーザーソングを選びましょう。

NOTE

USBフラッシュメモリーの空き容量が不十分な場合、コピーしたソングを保存できません。不要なファイルを削除する(30ページ)などして、空き容量を確保してください。

バックアップデータと楽器の初期化

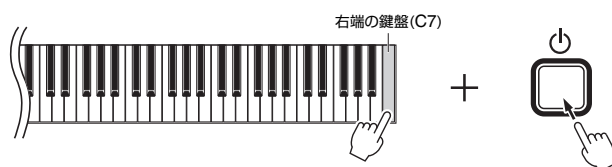
バックアップデータ

下記のデータは、楽器本体の内部メモリーに自動的に保存されます。これをバックアップデータといいます。バックアップデータと、内部メモリーに保存されたユーザーソングや外部ソングは、電源を切っても記憶されています。

- ・ オートパワーオフ機能のオン/オフ 13ページ
- ・ インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC) オン/オフ 14ページ
- ・ インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)のかかり具合 14ページ
- ・ バイノーラルサンプリング/ステレオフォニックオブティマイザー オン/オフ 15ページ
- ・ ハーフペダルポイント 16ページ
- ・ メトロノームの音量 19ページ
- ・ VRM機能 オン/オフ 21ページ
- ・ チューニング 23ページ
- ・ オーディオソングの再生音量 27ページ
- ・ 文字種 27ページ
- ・ AUX INノイズゲート オン/オフ 36ページ
- ・ 無線LANの接続情報 39ページ
- ・ オーディオループバック オン/オフ 40ページ
- ・ Bluetoothのペアリング情報 41ページ
- ・ Bluetooth オン/オフ 41ページ

楽器の初期化(イニシャライズ)

右端の白鍵(C7)を押したまま[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。この操作をすると、本体に記憶されているバックアップデータ(文字種の設定とBluetoothペアリング情報を除く)が消去され、初期設定に戻ります。本体メモリーに保存したユーザーソングや外部ソングは消去されません。



画面に「C L r」が表示され、初期化が始まります。初期化が終わると、画面表示が消えます。

注記

初期化実行中は、電源を切らないでください。外部ソング(25ページ)を含む、楽器本体メモリーに保存したソングデータが消えたり、バックアップデータが壊れたり、フォーマットが正しく行なわれないおそれがあります。

NOTE

この楽器が、何らかの原因で操作不能になったり、誤動作した場合は、いったん電源を切り、初期化を行なってください。

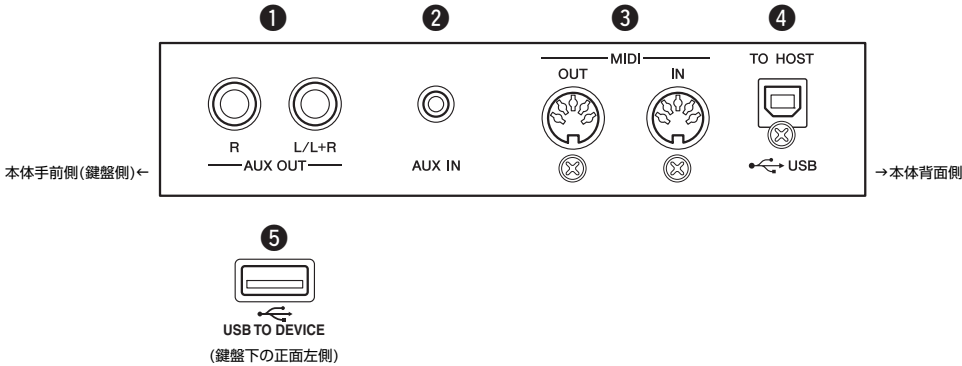
他の機器と接続する

⚠ 注意

外部のオーディオ機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行なってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電、聴覚障害または機器の損傷のおそれがあります。

端子について

端子パネルの位置については、10ページの「各部の名前」をご覧ください。



①	AUX OUT ^{アウト} [R] [L/L+R] 端子	36ページ
②	[AUX IN] ^{イン} 端子	下記参照
③	MIDI ^{ミディ} [OUT] ^{アウト} [IN] ^{イン} 端子	36ページ
④	[USB TO HOST] ^{トウーホスト} 端子	38ページ
⑤	[USB TO DEVICE] ^{トウーデバイス} 端子	31, 39ページ

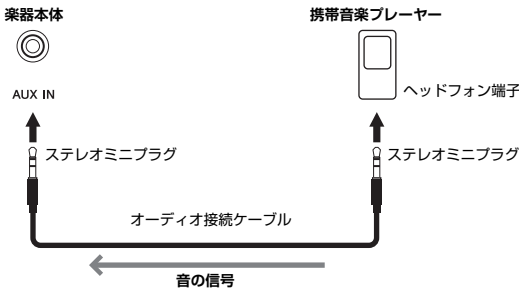
外部オーディオ機器と接続する—[AUX IN]端子、AUX OUT [R][L/L+R]端子

楽器本体のスピーカーから携帯音楽プレーヤーの音を出す—[AUX IN]端子

楽器の[AUX IN]端子と、携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ機器のヘッドフォン端子を接続すると、楽器本体のスピーカーから携帯音楽プレーヤーの音を鳴らすことができます。

注記

外部機器の損傷を防ぐため、外部機器の音を楽器本体から出力するときは、最初に外部機器、次に楽器本体の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に楽器本体、次に外部機器の順に行なってください。



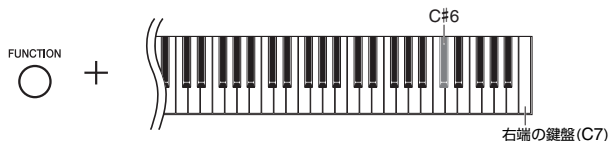
NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

●入力音のノイズをカットする(ノイズゲート)

この楽器では、[AUX IN]端子に入力した音に対し、余分なノイズをカットしています。しかし、本来ノイズではないピアノの減衰音のような小さな音をノイズとみなしてカットしてしまうことがあります。このような場合は、ノイズゲートをオフに設定してください。

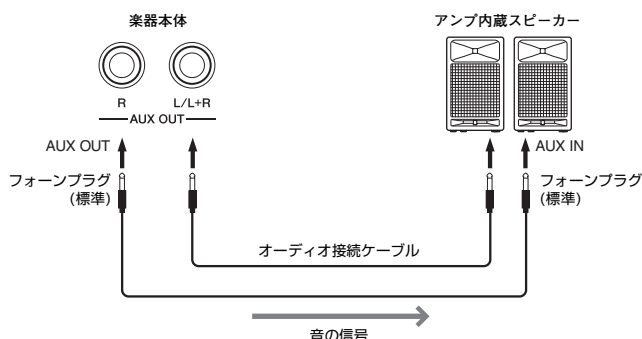
[FUNCTION]ボタンを押したままC#6鍵盤を押すたびに、ノイズゲートのオン/オフが切り替わります。



初期設定：On(オン)

楽器の音を外部スピーカーから鳴らす—AUX OUT [R][L/L+R]端子

アンプ内蔵スピーカーなどを接続して、より大きな音を出すことができます。



注記

- 外部機器の損傷を防ぐため、楽器本体の音を外部機器に出力するときは、最初に楽器本体、次に外部機器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に外部機器、次に楽器本体の順に行ってください。オートパワーオフ機能(13ページ)により、自動的に電源が切れることがあります。外部機器を接続した状態で、一定時間本体を操作しない場合は、この手順に従って手動で電源を切るか、オートパワーオフを解除してください。
- AUX OUT端子に外部機器を接続した場合、同時に接続先機器の出力端子と本機の[AUX IN]端子を接続しないでください。オーディオ信号のフィードバック(発振)が起こり、両機器の故障の原因となります。

NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

NOTE

モノラル出力には、AUX OUT [L/L+R]端子をご使用ください。

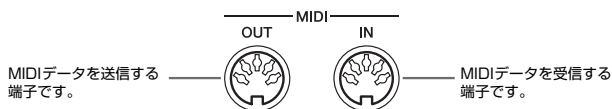
NOTE

ヘッドフォンを接続して、AUX OUT [R][L/L+R]端子の出力音をモニターする場合は、バイノーラルサンプリング/ステレオフォニックオブティマイザーをオフにすることをおすすめします。詳しくは15ページをご覧ください。

外部MIDI機器と接続する—MIDI [OUT][IN]端子

MIDI(Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器(電子楽器など)間や、MIDI機器とコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。

MIDI機器間(またはMIDI機器とコンピューター間)でMIDIデータを送受信することにより、電子楽器から外部MIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器やコンピューターから電子楽器をコントロールしたりできます。



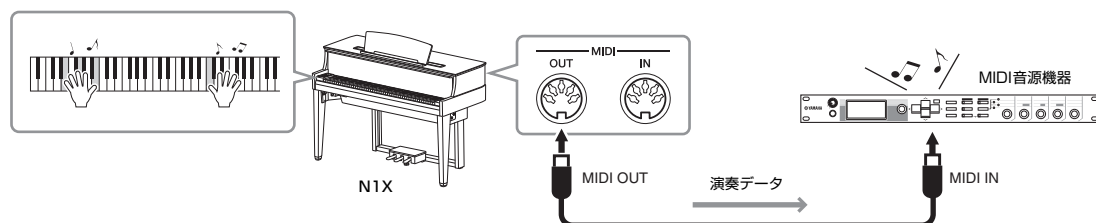
NOTE

- MIDI機器を接続するには、専用のMIDIケーブルをご用意ください。
- 機種ごとに扱えるMIDIデータが同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータだけが送受信できます。共通に扱えるデータは、ウェブサイト(2ページ)上の「MIDIリファレンス」の「MIDIインプリメンテーションチャート」をご覧ください。
- この楽器から再生中のMIDIソングデータの送信は、3～16チャンネルのみです。
- この楽器から音色デモ曲やプリセットソングのデータは送信できません。

外部MIDI機器との接続例

例1)

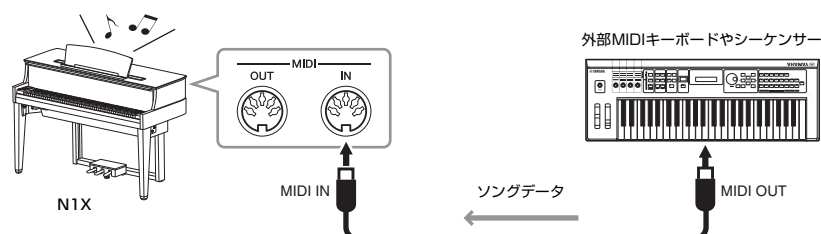
下記の接続で、この楽器の鍵盤を使って外部のMIDI音源を鳴らせます。



この楽器からの送信チャンネルは「1」なので、外部MIDI音源機器の受信チャンネルは「1」に設定します。

例2)

下記の接続で、外部MIDIキーボードやシーケンサーで再生した曲を、この楽器の音色で鳴らせます。



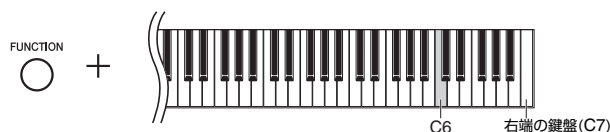
この楽器での受信チャンネルは、「1」と「2」のみです。したがって、受信するソングデータは、MIDI1～2チャンネルにピアノ演奏が割り当てられたソングデータをおすすめします。

ローカルコントロールオン/オフ

通常、この楽器で鍵盤を弾いたり、MIDIソングデータを再生したりすると、本体内部の音源から音が出ます。この状態を「ローカルコントロールオン」と呼びます。この楽器での演奏データを外部のMIDI機器へ送信して、楽器からは音を出したくない場合は、「ローカルコントロールをオフ」にします。

●ローカルコントロールのオン/オフ切り替え

ファンクション
[FUNCTION]ボタンを押したままC6鍵盤を押します。C6鍵盤を押すたびにローカルコントロールオン/オフが切り替わります。



初期設定：On(オン)

コンピューターと接続する—[USB TO HOST]端子

トウーホスト

USBケーブルを使ってこの楽器の[USB TO HOST]端子とコンピューターを接続すると、コンピューターとソングファイルをやりとりしたり、コンピューター用の音楽ソフトを楽しんだりできます。

詳しくはウェブサイト(2ページ)上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

また、コンピューターから楽器へのオーディオ入力音を、楽器での演奏音とともにコンピューターに出力するかどうかを設定できます。詳しくは、40ページ「オーディオループバックのオン/オフ」をご覧ください。

注記

- USBケーブルは、ABタイプのものでご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。
- DAW (Digital Audio Workstation) などの音楽制作アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバックをオフにしてご使用ください(40ページ)。

コンピューターと送受信できるファイル

- ソングファイル：拡張子が.midのファイル(SMF Format0と1)

NOTE

オーディオデータの送受信をWindows搭載のコンピューターで行なう場合は、Yamaha Steinberg USB Driver をコンピューターにインストールする必要があります。詳しくは、ウェブサイト(2ページ)上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

スマートデバイスと接続してアプリを使う

この楽器をiPhone/iPadなどのスマートデバイスと接続し、楽器に対応したスマートデバイスアプリを使うと、楽器をもっと便利に楽しめます。対応のスマートデバイスやアプリに関する情報は、以下のウェブサイトにある各アプリのページでご確認ください。

<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」

「スマートピアニスト」(無料)を使うと、スマートデバイスで音色選択やメトロノームなどを直感的に操作したり、MIDIソングの譜面を表示したりできます。詳細は、上記ウェブサイト「スマートピアニスト」のページでご確認ください。楽器とスマートデバイスの接続は、「スマートピアニスト」の接続ウィザードにより行なえます。「スマートピアニスト」の画面左上の「」をタップしてメニューを開き、「楽器」→「接続ウィザードを開始する」を順にタップします。

注記

楽器とスマートデバイスを接続した状態で「スマートピアニスト」を起動すると、楽器の設定が、「スマートピアニスト」での設定に自動的に変更されます。

NOTE

スマートデバイスをこの楽器の近くで使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、機内モードをオンにしてからWi-Fi/Bluetoothをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。

NOTE

「スマートピアニスト」の使用中は、楽器のボタンは使えません。「スマートピアニスト」を使って操作してください。楽器の[▶/||](プレイ/ポーズ)ボタンを押すと、「スマートピアニスト」との接続が解除され、楽器で操作できるようになります。

●接続方法について

「スマートピアニスト」の接続ウィザードを利用せず、USB無線LANアダプター(UD-WL01、別売)を使って接続する場合は39ページをご覧ください。その他の接続方法については、ウェブサイト(2ページ)上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

注記

- スマートデバイスを不安定な場所に置かないでください。スマートデバイスが落下して破損するおそれがあります。
- DAW (Digital Audio Workstation) などの音楽制作アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバックをオフにしてご使用ください(40ページ)。

USB無線LANアダプター (UD-WL01、別売)を使った接続

USB無線LANアダプター UD-WL01を使った接続方法は2通りあります。

●インフラストラクチャーモードによる接続(WPSによる接続)

無線LANアダプターが、アクセスポイントを経由して、ネットワークに接続する方法です。スマートデバイスを楽器と接続しながら、インターネットにも接続する場合に、この方法で接続します。

- 1 UD-WL01を[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 UD-WL01のWPSボタンを長押し(3秒)します。
画面には「WPS」が表示されます。
- 3 手順2のあと、2分以内にお使いのアクセスポイントのWPSボタンを押します。
楽器とアクセスポイントの接続が終わると、画面表示は消えます。
- 4 楽器を接続したネットワークに、スマートデバイスが接続されていることを確認します。

接続されていない場合は、スマートデバイスのWi-Fi設定画面で、Wi-Fiをオンにし、楽器を接続したネットワークをタップして接続します。

●アクセスポイントモードによる接続

アクセスポイントを経由せずに、無線LANアダプターとスマートデバイスを直接接続する方法です。

楽器と接続できるアクセスポイントがない場合や、スマートデバイスと楽器を接続しているときに、ほかのネットワークに接続する必要がない場合に、この方法で接続します。

- 1 前回インフラストラクチャーモードで接続した場合は、楽器を初期化します(34ページ)。

注記

初期化すると、本体に記憶されているバックアップデータ(34ページ)のうち、文字種の設定とBluetoothペアリング情報を除くデータが消去され、初期設定に戻ります。

- 2 UD-WL01を[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 3 スマートデバイスのWi-Fi設定画面で、Wi-Fiをオンにし、「ap-N1X-xxxxxx(6桁の英数字)」をタップし、楽器を接続します。

NOTE

[USB TO DEVICE]端子を使う前に、「[USB TO DEVICE]端子で使用する注意」(31ページ)をお読みください。

アクセスポイント

無線LANで電波のやりとりを行なうときの基地局となる機器です。ルーターやモデムと一体になっている場合もあります。

NOTE

前回インフラストラクチャーモードで接続した場合は、手順2、3を行なわなくても、自動的に接続されません。

オーディオデータを送受信する(USBオーディオインターフェース機能)

USBケーブルを使って、コンピューターやスマートデバイスを[USB TO HOST]^{トウーホスト}端子に接続すると、オーディオデータをデジタルで送受信できます。これをUSBオーディオインターフェース機能といい、たとえば次のようなことができます。

●オーディオデータを高音質で再生

[AUX IN]^{イン}端子での接続と比べて、音質の劣化が少なくクリアな音質で楽しめます。

●録音ソフトや音楽制作ソフトを使って、楽器の演奏をオーディオデータとして録音
録音したデータは、コンピューターやスマートデバイスで再生できます。

注記

DAW (Digital Audio Workstation) などの音楽制作用アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバック(下記)をオフにしてください。

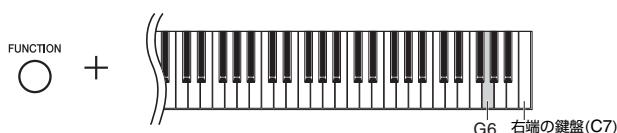
NOTE

- 接続方法については、ウェブサイト(2ページ)上の「コンピューターとつなぐ」、または「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。
- 楽器へのオーディオデータの入力音の音量は、コンピューターまたはスマートデバイス側で調節してください。

オーディオループバックのオン/オフ

USBオーディオインターフェース機能による楽器へのオーディオ入力音を、楽器での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力する(オーディオループバックする)かどうかを設定できます。出力する場合はオンに、出力しない場合は、オフにします。たとえば、コンピューターやスマートデバイスを使って、楽器での演奏音だけでなく楽器へ入力したオーディオ再生音も録音したい場合はオンに、楽器での演奏音だけを録音したい場合はオフにします。

設定するには、[FUNCTION]^{ファンクション} ボタンを押したまま、G6鍵盤を押します。G6鍵盤を押すたびにOn(オン)/OFF(オフ)が切り替わります。



初期設定 : On(オン)

NOTE

- Bluetoothオーディオ機能(下記)や無線LAN接続(39ページ)によるオーディオ入力音もオーディオループバックの対象です。
- オーディオソング(25ページ)の再生音は、この設定がオンのときは、[USB TO HOST]端子にUSBケーブルで接続したコンピューターやスマートデバイスに出力されますが、オフのときは出力されません。
- オーディオ録音(28ページ)すると、この設定がオンのときは、コンピューターやスマートデバイス、Bluetooth対応機器からのオーディオ入力音も録音されますが、オフのときは録音されません。

ブルートゥース

Bluetooth対応機器のオーディオデータを楽器で鳴らす(Bluetoothオーディオ機能)

Bluetoothオーディオ機能を使う前に、必ず50ページの「Bluetoothについて」をお読みください。

スマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどのBluetooth対応機器と接続すると、その機器で再生するオーディオデータをこの楽器のスピーカーから鳴らせます。入力されたオーディオデータはオーディオソングとして録音することもできます(28ページ)。また、この機能による楽器へのオーディオ入力音を、[USB TO HOST]^{トウーホスト}端子にUSBケーブルで接続したコンピューターやスマートデバイスに出力するかどうかを設定できます。詳しくは、「オーディオループバックのオン/オフ」(上記)をご覧ください。

*Bluetooth対応機器

本書におけるBluetooth対応機器とは、Bluetooth機能を使って、無線でオーディオデータを送信できる機器のことをいいます。(例：スマートフォン、携帯オーディオプレーヤーなど) また、この機器は、A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)に対応している必要があります。

Bluetooth対応機器とペアリングする

Bluetoothを使って初めて接続する場合、Bluetooth対応機器とこの楽器をペアリングする必要があります。一度ペアリングした機器は、再度ペアリングの必要はありません。

1 [FUNCTION] ボタンを長押し (3秒) します。

楽器がペアリングモードになり、操作パネルのBluetoothランプが点滅し、画面には「bt」と表示されます。ペアリングをキャンセルするには、[▶/||] (プレイ/ポーズ) ボタンを押します。



2 Bluetooth対応機器のBluetooth機能をオンにして、接続リストからこの楽器のモデル名「N1X」を選択します。

詳しい操作方法は、Bluetooth対応機器の取扱説明書をご覧ください。

ペアリングが完了すると、Bluetoothランプが点灯し、画面の表示が消えます。

3 Bluetooth対応機器でオーディオデータを再生し、楽器から音が出を確認します。

次に楽器の電源を入れたとき、楽器とBluetooth対応機器のBluetooth機能がオンであれば、前回最後に接続した機器と自動で接続します。自動で接続できない場合は、Bluetooth対応機器の接続リストから再度モデル名を選択してください。

ペアリング

Bluetooth対応機器をこの楽器に登録し、無線通信できるように設定することをペアリングといいます。

NOTE

- この楽器は、最大8台のBluetooth対応機器とペアリング(登録)できますが、同時に接続できるのは1台のみです。9台目の機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い機器の情報が削除されます。
- この楽器のBluetooth機能はオフにできません。Bluetooth機能がオフのときは、[FUNCTION] ボタンを3秒押ししても接続できません。設定をオンに切り替えてから、再度接続してください(下記参照)。

NOTE

- Bluetooth対応機器側の設定は、5分以内に行なってください。5分を経過すると、ペアリングモードが自動的に終了し、Bluetoothランプが消えます。
- バスキーの入力を要求された場合は、数字で「0000」を入力してください。

NOTE

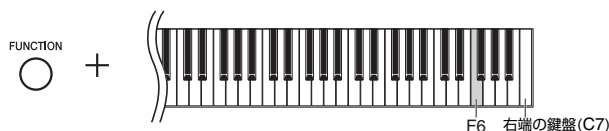
Bluetooth対応機器からの入力音

は、楽器の[MASTER VOLUME]つまみで調節できます。鍵盤演奏とバランスを調整したい場合は、Bluetooth対応機器の入力音の音量を機器側で調節してください。

Bluetooth機能のオン/オフを切り替える

この楽器の初期設定では、Bluetooth機能がオン(On)に設定されていますが、接続を解除したいときや、もう一度接続しなおしたいときなど、楽器のBluetooth機能のオン/オフを設定できます。

[FUNCTION] ボタンを押したまま、F6鍵盤を押します。F6鍵盤を押すたびにBluetooth機能のオン/オフが切り替わります。



メッセージ一覧

メッセージ	内容
b _t	楽器とスマートデバイスをBluetooth接続するため、ペアリングモード(待機状態)になっています。このメッセージが表示されているときは、楽器の操作ができません。ペアリングモード(待機状態)を解除したい場合は、[▶/■](プレイ/ポーズ)ボタンを押します。
Clr	楽器の初期化中です(34ページ)。
con	楽器をコンピュータと接続してミュージックソフトダウンローダーを使用しています。または、楽器をiPhone/iPadなどと接続してミュージックソフトマネージャーまたはスマートピアニスト(38ページ)を使用しています。このメッセージが表示されているときは、楽器の操作ができません。
EQ1	文字種の設定(27ページ)が、選択しようとしているソングのファイル名に合っていない。文字種を切り替えてください。
	この楽器では対応していないデータ形式です。または、データに問題があるため選択できません。
	USBフラッシュメモリーが見つかりません。または、USBフラッシュメモリーに異常が発生しました。USBフラッシュメモリーを接続し直してから、操作を実行してください。ほかに問題がないのに、このメッセージがくり返し表示される場合は、USBフラッシュメモリーが壊れている可能性があります。
	この楽器でコピー、または削除できないソングが選ばれています。コンピュータ上でコピー、削除してください。
EQ2	コピー先のUSBフラッシュメモリーの容量やファイル数がいっぱいです。USBフラッシュメモリー内の不要なファイルを削除してください。
EQ3	USBフラッシュメモリーにプロテクトがかかっています。
EQ4	USBフラッシュメモリーの空き容量が不足しています。またはファイルやフォルダーの数が制限を超えました。
EQ4	オーディオソングの再生/録音に失敗しました。録音や削除を繰り返し行なったUSBフラッシュメモリーをお使いの場合は、必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットし(32ページ)、楽器に接続してください。
EE1	本体に異常が発生しました。巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。
EEE	本体に異常が発生しました。巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。
End	処理が終わりました。
EnP	楽器本体の内部メモリーまたはUSBフラッシュメモリーの空き容量が少なくなりました。録音を始める前に不要なファイルを削除(30ページ)して、空き容量を確保することをおすすめします。
FUL	楽器本体の内部メモリーまたはUSBフラッシュメモリーの空き容量が不足するため、データの処理ができませんでした。録音中にこのメッセージが表示されたときは、演奏データが正しく保存されない場合があります。
n _Y	操作を実行しますか？
Pro	プロテクトがかかったソングのため、データの削除や上書きはできません。
UnF	フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーが接続されています。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください(32ページ)。
Uoc	USBフラッシュメモリーに過電流が流れたため、USBフラッシュメモリーとの通信を停止しました。 →USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子から抜き、本体の電源を入れ直してください。
UU1	USBフラッシュメモリーにアクセスできません。 →USBフラッシュメモリーをいったん外してから、接続し直してください。それでもこのエラーメッセージが表示される場合は、別のUSBフラッシュメモリーをお使いください。
UU2	このUSBフラッシュメモリーは、この楽器では使えません。 →動作確認済みのUSBフラッシュメモリーをお使いください。
	接続できるUSBフラッシュメモリーの数が増えました。 →「USBフラッシュメモリーの取り扱いについて」をお読みください(31ページ)。
WPS	楽器とスマートデバイスをWPS接続するため、待機状態になっています。このメッセージが表示されているときは、楽器の操作ができません。
WPS	WPS接続(39ページ)待機中に異常が発生しました。UD-WL01(別売)を挿し直して、再度接続してください。

* 処理中を表すメッセージ(---)は、「-」→「--」→「---」→「-」…と表示されます。

* メッセージを消すには、いずれかのボタンを押してください。

困ったときは

現象	考えられる原因と解決法
本体の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません(本体側とコンセント側)。電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(12ページ)。
電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。異常ではありません。
電源が勝手に切れる。	オートパワーオフ機能が働いたためです。オートパワーオフの設定を変更してください(13ページ)。
楽器本体のスピーカーやヘッドフォンから雑音が出る。	本体の近くで携帯電話を使っています(または呼び出し音が鳴っています)。携帯電話の電源を切るか、本体から離れたところで携帯電話を使ってください。本体の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
iPhone/iPadなどのスマートデバイスと楽器を一緒に使っているとき、本体スピーカーやヘッドフォンから雑音(ノイズ)が出る。	スマートデバイスのアプリと楽器を一緒に使っています。通信によるノイズを避けるため、機内モードをオンにしてからWi-Fi/Bluetoothをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	音量が下がっています。[MASTER VOLUME]つまみを回して音量を上げてください(14ページ)。
	[フォーンズ PHONES]端子にヘッドフォンまたは変換プラグを接続しています。ヘッドフォンのプラグまたは変換プラグを抜いてください(15ページ)。
	ローカルコントロールがオフになっています。ローカルコントロールをオンにしてください(37ページ)。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。異常ではありません。
音が出ない鍵盤がある。	鍵盤を押したまま電源を入れると、音が正常に出ないことがあります。電源を入れ直してください(12ページ)。このとき鍵盤を触らないでください。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器はピアノと同様の鍵盤・アクション機構を使用しているため、機構音が発生します。異常ではありません。
鍵盤が滑らかに戻らない。	この楽器では、ピアノと同様の鍵盤・アクション機構を使用しています。そのため、使用いただく中で、鍵盤・アクションがご購入時の状態から変化する場合があります。このような場合は、お買い上げ店、または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。
ほかの鍵盤に比べて、大きな音や小さな音が鳴る鍵盤がある。	
[AUX IN]端子から入力した音が途切れる。	AUX INに接続した機器の音量(出力レベル)が小さく、入力音の余分なノイズをカットする機能(ノイズゲート)で小さな音がカットされることがあるためです。下記対応を行ってください。 ・AUX INに接続した機器側の音量を上げてください。楽器本体から出す音量の調節は、[MASTER VOLUME]つまみで行なってください。 ・ノイズゲートをオフに設定してください(36ページ)。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[PEDAL]端子にしっかり差し込まれていません。本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを[PEDAL]端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかり差し込んでください(46ページ)。
	ダンパーペダルを踏んだまま電源を入れたためです。故障ではありません。ダンパーペダルを踏み直すと機能が回復します。
USBフラッシュメモリーがフリーズする。	USBフラッシュメモリーの動作が不安定になっています。USBフラッシュメモリーをいったん外してから、接続し直してください。
	動作確認されていないUSBフラッシュメモリーです。動作確認済みのUSBフラッシュメモリーをご使用ください(31ページ)。
トランスポーズを設定したときに、高い方や低い方の音がおかしい。	トランスポーズを設定したときに発音できる音域はC-2～G8です。C-2より低い音は1オクターブ上の音で、G8より高い音は1オクターブ下で鳴ります。異常ではありません。
Bluetooth Bluetooth対応機器がペアリング、または接続できない。	この楽器のBluetooth機能がオフになっています。この楽器のBluetooth機能をオンにしてください(41ページ)。
	この楽器とBluetooth対応機器がペアリングできていません。Bluetooth経由で接続するため、はじめに機器同士をペアリングしてください(41ページ)。
	Bluetooth対応機器のBluetooth機能が無効になっています。Bluetooth対応機器のBluetooth機能が有効を確認してください。
	この楽器とBluetooth対応機器の距離が離れすぎています。Bluetooth対応機器をこの楽器に近づけてください。
	2.4 GHz帯の電磁波を発するもの(電子レンジ、無線LAN機器など)が近くにあります。電磁波を発するものからこの楽器を離してください。
Bluetoothから入力した音が途切れる。	Bluetooth対応機器側の音量(出力レベル)が小さく、入力音の余分なノイズをカットする機能(ノイズゲート)で小さな音がカットされることがあるためです。Bluetooth対応機器側の音量を上げてください。楽器本体から出す音量の調節は、[MASTER VOLUME]つまみで行なってください。

* メッセージ一覧(42ページ)もご覧ください。

プリセットソングリスト

画面	曲名	作曲者
P.01	幻想的小品集 前奏曲	S. ラフマニノフ
P.02	おとめの願い (6つのポーランドの歌より)	F. リスト
P.03	ピアノ ソナタ 第14番 「月光」 第1楽章 op.27-2	L. v. ベートーヴェン
P.04	ピアノ ソナタ 第5番 第1楽章 K.283	W. A. モーツァルト
P.05	夜想曲 第1番 op.9-1	F. F. ショパン
P.06	ソナタ K.380, L.23	D. スカルラッティ
P.07	ワルツ 第10番 op.69-2	F. F. ショパン
P.08	ゴルトベルク変奏曲 アリア BWV 988	J. S. バッハ
P.09	幻想即興曲	F. F. ショパン
P.10	月の光	C. A. ドビュッシー

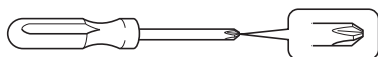
N1Xの組み立て方

組み立てや解体、お引越しの際は、AvantGrandの正規取扱店にご依頼ください。

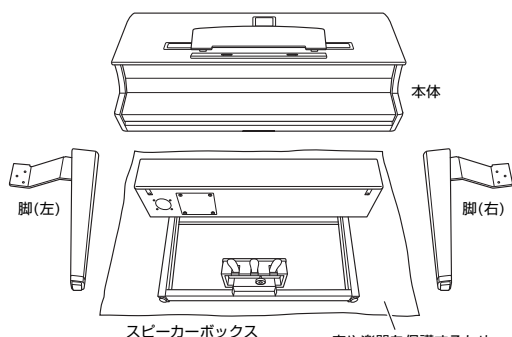
⚠ 注意

- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立てるときは、安全に組み立てができる人数で行なってください。
- ネジは付属の指定サイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 分解するときには、組み立てと逆の手順で行なってください。

ネジのサイズに合ったプラス(+)のドライバーを用意してください。



本体以外の部品を取り出し、部品がすべてそろっているか確かめてください。本体は、手順3までは箱から取り出さないでください。



長いネジ×10
(6×30mm)
ヘッドフォン
ハンガー



短いネジ×6
(6×20mm)
細いネジ×2
(4×10mm)



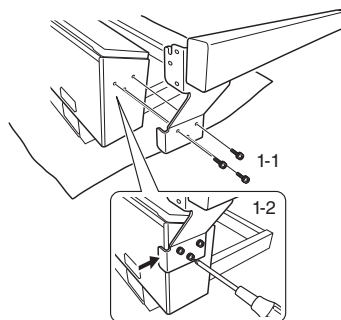
電源コード×1

床や楽器を保護するため、梱包材のシートなどを敷いてください。

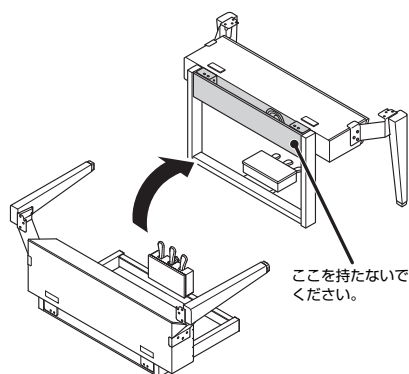
1 スピーカーボックスに脚を固定します。

- 1-1 スピーカーボックスの側面に片脚を短いネジ(6×20mm) 3本で仮留めします。
- 1-2 脚の金具をスピーカーボックスに押しつけながら仮留めしたネジをきつく締め直します。

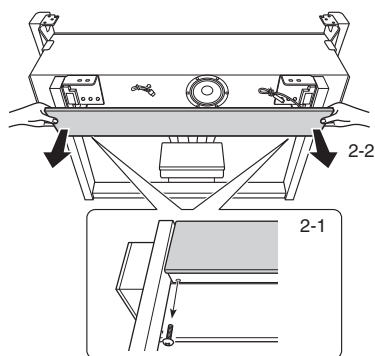
- 1-3 もう一方の脚も同様に固定します。



- 1-4 スピーカーボックスを起こします。



2 スピーカーネットを外します。



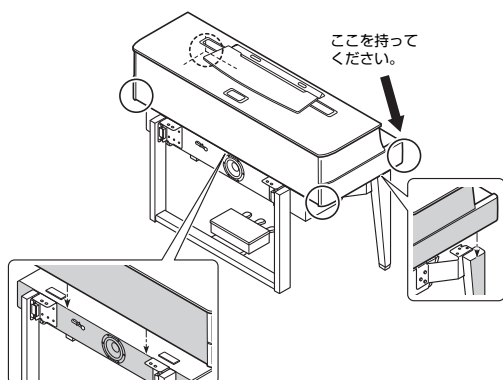
- 2-1 ネジを2本外します。外したネジは、手順6で使用します。
- 2-2 スピーカーネットを外します。

3 本体をのせます。

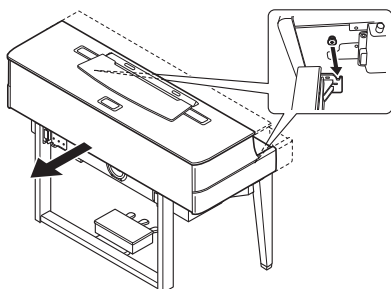
3-1 図のように、本体をスピーカーボックスの背面と脚の側面に位置をそろえてのせます。

⚠ 注意

本体をのせるときに指をはさまないようにご注意ください。

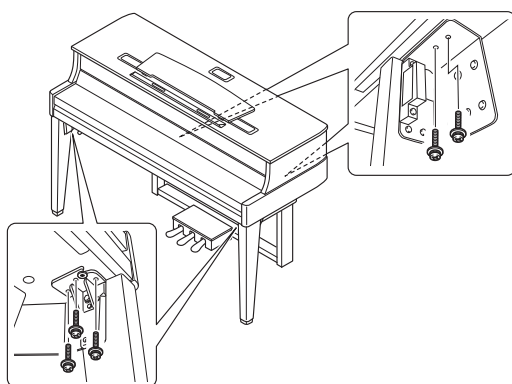


3-2 本体を背面側にすらし、本体底面の金具を両脚の金具の溝に合わせます。

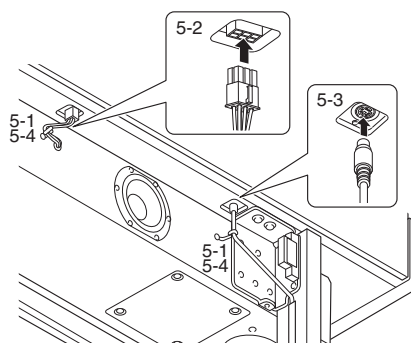


4 本体を固定します。

長いネジ(6×30mm) 10本で固定します。



5 スピーカーコードとペダルコードを接続します。



5-1 スピーカーコードとペダルコードをほどきます。

5-2 スピーカーコードのプラグを、つめが背面から見て手前にくる向きで、端子に差し込みます。

5-3 ペダルコードのプラグを向きに注意してペダル端子に差し込みます。

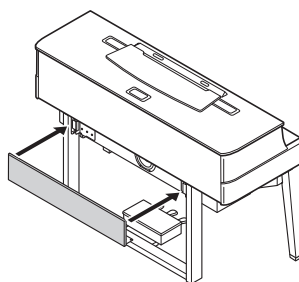
ペダルコードを接続するときは
プラグの金具部分が見えなくなるま
でしっかり差し込んでください。
しっかり差し込まれていない場合、
ペダルが機能しない原因になりま
す。



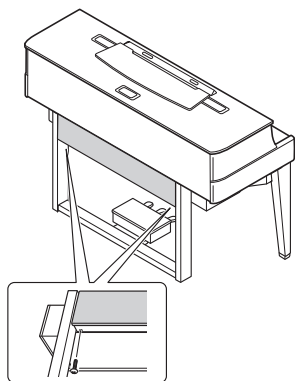
5-4 スピーカーコードとペダルコードをビニールひもで束ねます。

6 スピーカーネットを取り付けます。

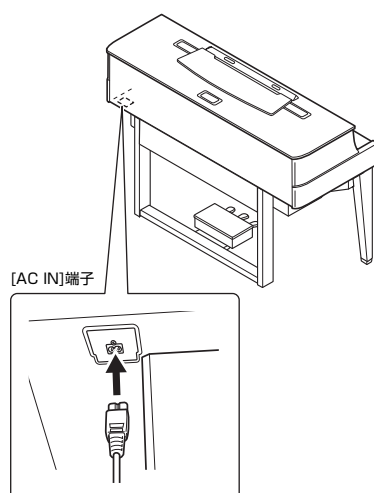
6-1 スピーカーネットを貼り付けます。



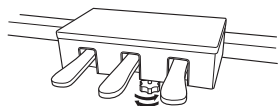
6-2 手順2で外したネジでスピーカーネットを固定します。



7 電源コードのプラグを[AC IN]^{イン}端子に差し込みます。

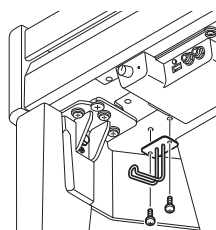


8 アジャスターを回して、床にぴったりつけます。



9 ヘッドフォンハンガーを固定します。

付属の細いネジ(4×10mm)2本で、図のように取り付けます。



組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？ → 組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどが楽器にあたいませんか？ → 楽器を移動してください。
- 楽器がぐらぐらしませんか？ → ネジを確実に締めてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？ → 確認してください。

⚠ 注意

使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

仕様

品名			ハイブリッドピアノ
サイズ/質量	幅		1,465 mm
	高さ	譜面立てを倒した場合	1,001 mm
		譜面立てを立てた場合	1,167 mm
	奥行き		618 mm
	質量		117 kg
操作子	鍵盤	鍵盤数	88 (A-1～C7)
		鍵盤種	アバングランド専用グランドピアノアクション
		白鍵	アクリベット
		タッチ感度	※「アクリベット」は、三菱ケミカル株式会社の登録商標です。 ハード/ ミディアム/ ソフト/ フィックス
	センサー	ハンマー部	非接触式
		鍵盤部	非接触式
	ペダル	ペダル数	3
	ペダル機能	ダンパー (ハーフペダル対応)、ソステヌート、ソフト	
	ペダル機構	GPレスポンスダンパーペダル	
本体	鍵盤蓋	ソフトランディング機構	○
	譜面立て		○
	譜面止め		○
音源/音色	音源	ピアノ音	スペシャル・アコースティック・サンプリング
		バイノーラルサンプリング	○(「CFX グランド」音色のみ)
	ピアノ音源の効果	バーチャル・レゾナンス・モデリング(VRM)	○
		キーオフサンプリング	○
		スムーズリリース	○
		最大同時発音数	
	プリセット	音色数	15
効果	タイプ	リバーブ	○
		プリリアンス	5
		インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)	○
		ステレオフォニック	
		オブティマイザー	○
録音/再生 (MIDIソング)	プリセット	内蔵曲数	プリセットソング 10曲、音色デモ 15曲
	録音	曲数	10
		トラック数	1
		データ容量	1曲 約500 KB
	フォーマット	再生	SMF (フォーマット0, 1)
録音		SMF (フォーマット0)	
録音/再生 (オーディオソング)	録音時間(最大)		80 分/曲
	フォーマット	再生 録音	WAV (44.1 kHz、16 bit、ステレオ) WAV (44.1 kHz、16 bit、ステレオ)
ファンクション	全体設定	メトロノーム	○
		テンポ	5～500
		トランスポーズ	-6～0～+6
		チューニング	414.8～440.0～466.8 Hz
		スケール(音律)	7 タイプ
		USBオーディオインターフェース機能	44.1 kHz、16 bit、ステレオ
		Bluetoothバージョン	4.1
	Bluetooth接続	対応プロファイル	A2DP
		対応コーデック	SBC
		無線出力	Bluetooth Class 2
		最大通信距離	約10 m
		送信周波数範囲	2,402～2,480 MHz
		無線最大出力電力	4 dBm
		メモリー / 接続端子	メモリー
外付けメモリー	USBフラッシュメモリー		
接続端子	ヘッドフォン		ステレオ標準フォーン端子(x 2)
	MIDI		IN/OUT
	AUX IN		ステレオミニ端子
	AUX OUT		[L/L+R][R] (標準フォーン端子)
	USB TO DEVICE		○
	USB TO HOST		○
音響	アンプ出力		30 W x 6
	スピーカー		16 cm x 1 + 13 cm x 2 + 8 cm x 3
電源部	定格電源		AC100 V 50/60 Hz
	消費電力		60 W
	オートパワーオフ		○
付属品	取扱説明書(本書)、保証書、電源コード、キーカバー、イス、製品登録のご案内、フェルトセット		
別売品	ヘッドフォン(HPH-50/HPH-100/HPH-150)、 USB無線LANアダプター (UD-WL01)、 ワイヤレスMIDI アダプター (UD-BT01/MD-BT01)		

* 本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

索引

A

AUX IN	35
AUX OUT	36

B

Bluetooth	40
-----------------	----

H

Hz (ヘルツ)	23
----------------	----

I

IAC	14
-----------	----

M

MIDI	36
MIDIソング	25
MIDI入門	2
MIDIリファレンス	2
MIDI録音	28

U

USB TO DEVICE	31
USB TO HOST	38
USBオーディオインターフェース機能	40
USB機器	31
USBフラッシュメモリー	31
USB無線LANアダプター	31, 39

V

VRM	21
-----------	----

ア

アクセスポイント	39
アクセスポイントモード	39
アフターサービス	52
安全上のご注意	4

イ

一時停止	27
移動	8
イニシャライズ	34
インテリジェント・アコースティック・ コントロール(IAC)	14
インフラストラクチャーモード	39

オ

オーディオソング	25
オーディオループバック	40
オーディオ録音	28
オートパワーオフ	13
音色	17
音色デモ曲	18
音色リスト	17
音律	24
音量(オーディオソング)	27
音量(全体音量)	14
音量(メトロノーム)	19

カ

外部ソング	25
画面	10

ク

クイックオペレーションガイド	51
組み立て	45

ケ

鍵盤蓋	11
-----------	----

コ

コピー	33
困ったときは	43
コンピューター	38
コンピューターとつなぐ	2

サ

再生	
MIDIソング	26
オーディオソング	26
オール	26
デモ曲	18
プリセットソング	26
ランダム	26
再生速度(オーディオソング)	27
削除	30
残響	22

シ

仕様	48
初期化(USBフラッシュメモリー)	32
初期化(楽器)	34

ス

ステレオフォニックオプティマイザー	15
ストリングレゾナンス	21
スマートデバイス	38
スマートデバイス接続マニュアル	2
スマートピアニスト	38

セ

設置	8
----------	---

ソ

操作パネル	10
ソング	25
ソングカテゴリーリスト	25

タ

タッチ感度	20
ダンパーレゾナンス	21

チ

チューニング	23
調律	8

テ

デモ曲	18
デモ曲リスト	18
電源	12
テンポ	20

ト

トランスポーズ	23
---------------	----

ノ

ノイズゲート	36
--------------	----

ハ

バージョン	13
バーチャル・レゾナンス・モデリング (VRM)	21
ハーフペダル	16
ハーフペダルポイント	16
バイノーラルサンプリング	15
バックアップデータ	34
早送り	27
早戻し	27

ヒ

拍子	19
----------	----

フ

ファイル管理	32
フォーマット(USBフラッシュメモリー)	32
付属品	2
譜面立て	11
譜面止め	11
プリセットソングリスト	44
プリリアンス	22

ヘ

ベース音	24
ペアリング	41
ペダル	16
ヘッドフォン	15
ヘッドフォンハンガー	15

マ

マスターボリューム	14
-----------------	----

メ

メッセージ一覧	42
メトロノーム	19

モ

文字種	27
-----------	----

ユ

ユーザーソング	25
---------------	----

リ

リバーブ	22
------------	----

ロ

ローカルコントロール	37
録音	28

Bluetoothについて

- Bluetoothとは、2.4 GHz帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行なうことができる技術です。



- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ヤマハ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

Bluetooth通信の取り扱いについて

- Bluetooth対応機器が使用する2.4 GHz帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth対応機器は、同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本機はすべてのBluetooth機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

製品の取り扱いに関する注意

- 本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、日本電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は不要です。ただし、本製品に以下の行為を行なうと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解/改造する
 - 本体底面の銘板をはがしたり、消したりする

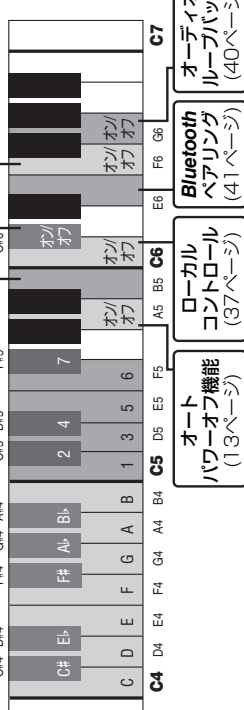
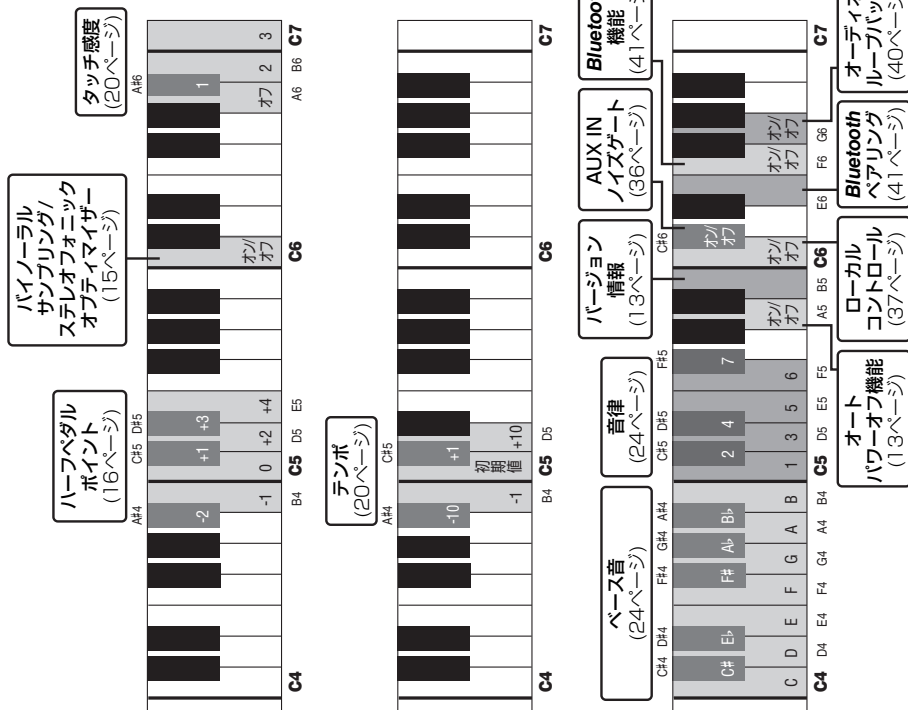
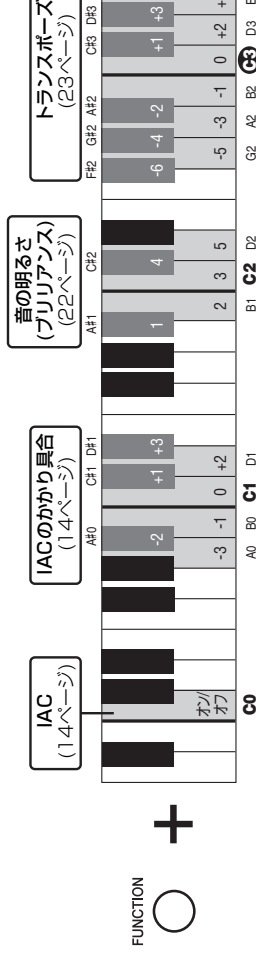
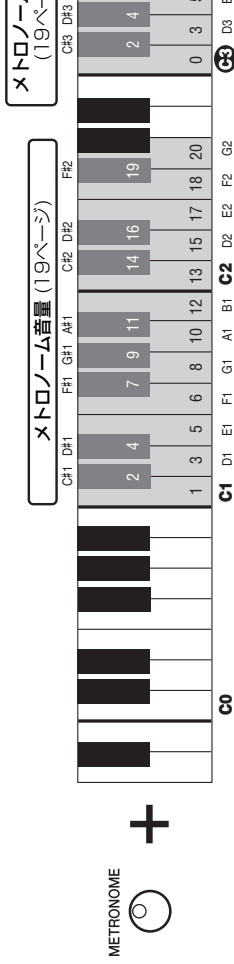
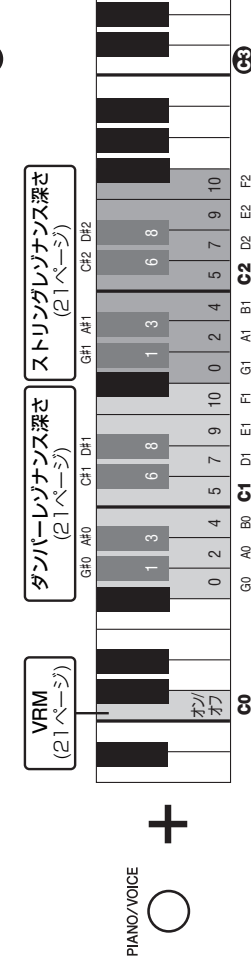
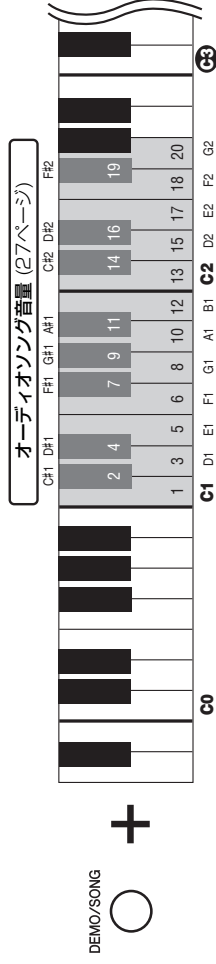
無線に関する注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。

クイックオペレーションガイド

操作パネルのボタンを押したまま該当する鍵盤を押して設定します。



保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、または修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。
「販売店印・お買い上げ日」が記入されている場合は、記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。記入されていない場合は、購入を証明する書類(領収書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

●保証期間

保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。
有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店または修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造終了後8年です。

●修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆修理に関するお問い合わせ

修理ご相談センター



フリーダイヤル

携帯電話、
IP電話からは

0120-149-808

050-3852-4106

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(祝日、センター指定休日を除く)

FAX 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海) 03-5762-2125
西日本(沖縄/九州/中国/四国/近畿/北陸) 06-6649-9340

◆修理品お持ち込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日、センター指定休日を除く)

* お電話は、修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 JMT京浜E棟A-5F
西日本サービスセンター 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ辻ビル 7F

FAX 03-5762-2125
FAX 06-6649-9340

◆AvantGrand 仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口



フリーダイヤル

携帯電話、
IP電話からは

0120-139-808

050-3852-4079

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(祝日、センター指定休日を除く)

ヤマハ サポート・お問い合わせ
<https://jp.yamaha.com/support/>



ヤマハ楽器音響製品お客様サポートLINE公式アカウント

◆ウェブサイトのご案内

ヤマハ株式会社ホームページ
ヤマハ ピアノ・電子ピアノサイト
ヤマハミュージックデータショップ

<https://jp.yamaha.com/>
<https://jp.yamaha.com/piano/>
<https://yamhamusicdata.jp/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町10-1

© 2018 Yamaha Corporation
2025年3月 発行
KSMA-D0



ZZ29900

※ 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などに変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。